



SOMPO ホールディングス

安心・安全・健康のテーマパーク

2020年6月版

トピックス & ベーシックス

2020年6月

SOMPOホールディングス株式会社



1. SOMPOホールディングスについて

P1

2. 経営戦略

P6

(1) グループ経営

P6

(2) 事業別進捗

P20

(3) ERM・資本政策・資産運用

P38

参考資料

P46

SOMPOホールディングスの概要

- ◆ 損保ジャパンを主力に、国内外の保険引受事業などを展開
- ◆ 連結経常収益は3兆7,000億円超、総資産は約12兆円

グループ概要



国内損保事業

- 損保ジャパン
- セゾン自動車火災
- 損保ジャパンパートナーズ
- 損保ジャパンDC証券
- SOMPOリスクマネジメント など

海外保険事業

- Sompoインターナショナル(SI)
- Sompoセグロス(ブラジル)
- Sompoシゴルタ(トルコ)
- ベルジャヤソポ(マレーシア)
- Sompoシンガポール など

国内生保事業

- SOMPOひまわり生命

介護・ヘルスケア事業等

- SOMPOケア
- アセットマネジメント事業 など

主要指標(グループ連結)

(億円)	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
連結経常収益	36,430	37,603	—
連結経常利益	1,989	1,924	2,230
連結純利益	1,466	1,225	1,500
総資産	120,182	119,778	—
純資産	17,799	16,125	—
時価総額	15,262	12,172	—

格付(2020年5月現在)

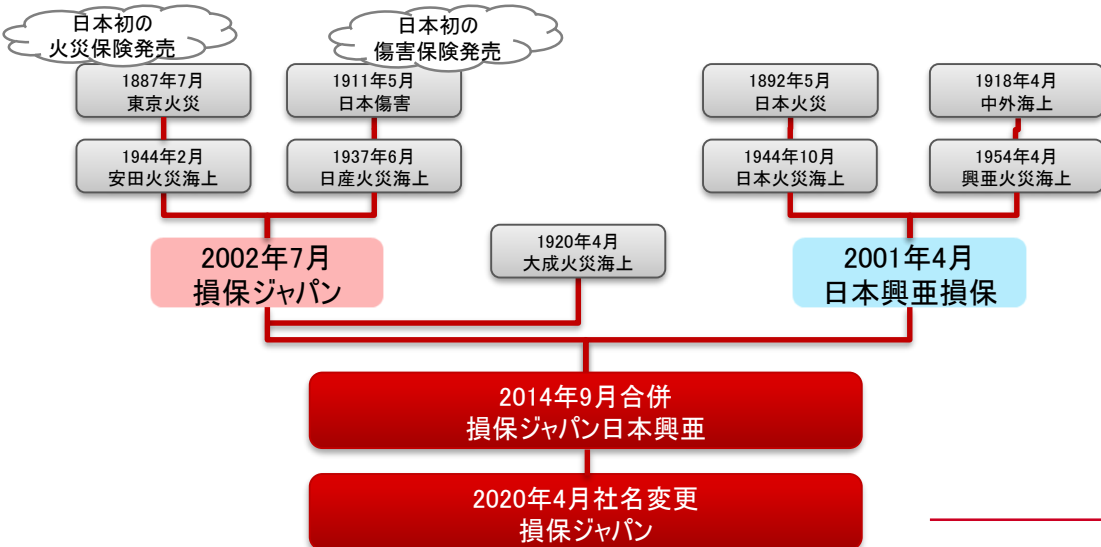
	損保ジャパン	SI*	ひまわり生命
S&P	A+ (安定的)	A+ (安定的)	A+ (安定的)
Moody's	A1 (安定的)	—	—
A.M. Best	A+ (安定的)	A+ (安定的)	—
R&I	AA (安定的)	—	AA (安定的)
JCR	AA+ (安定的)	—	—

※ Sompo International Holdings Ltd. 主要子会社の格付

損保ジャパンの概要

◆ 130年を超える歴史を有し、正味収入保険料は約2.1兆円

国内保険事業の沿革

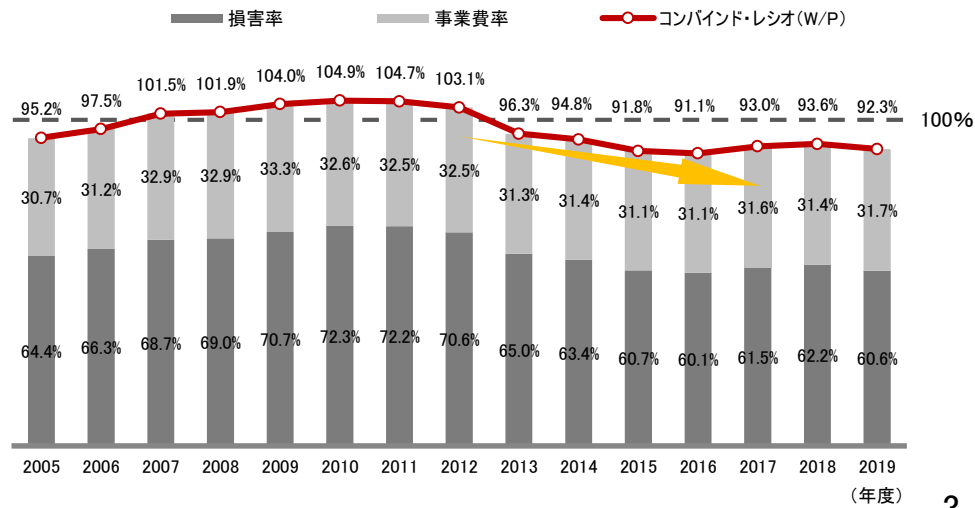


主要指標

(億円)	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
正味収入保険料	21,486	21,847	21,735
経常利益	2,155	1,823	2,100
当期純利益	1,757	1,305	1,560
総資産	75,158	71,660	—
純資産	14,693	13,019	—
コンバインド・レシオ(W/P) ^{※1}	101.6%	97.3%	94.6%

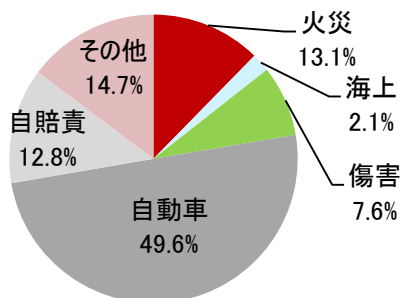
※1 除く自賠責・家計地震

自動車保険の収益性

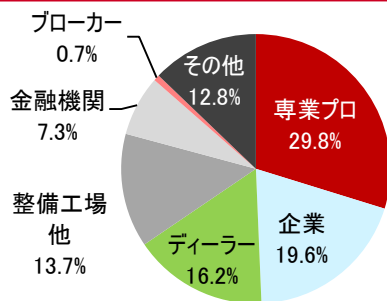


2019年度正味収入保険料

商品別(正味ベース)



販売チャネル別^{※2}(元受ベース)

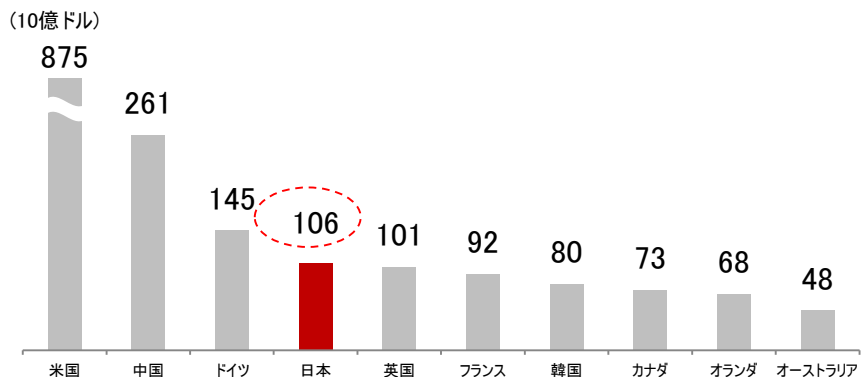


※2 営業成績ベースの元受保険料。「専門プロ」、「企業」、「ディーラー」、「整備工場他」、「金融機関」及び「その他代理店」は、すべて保険代理店

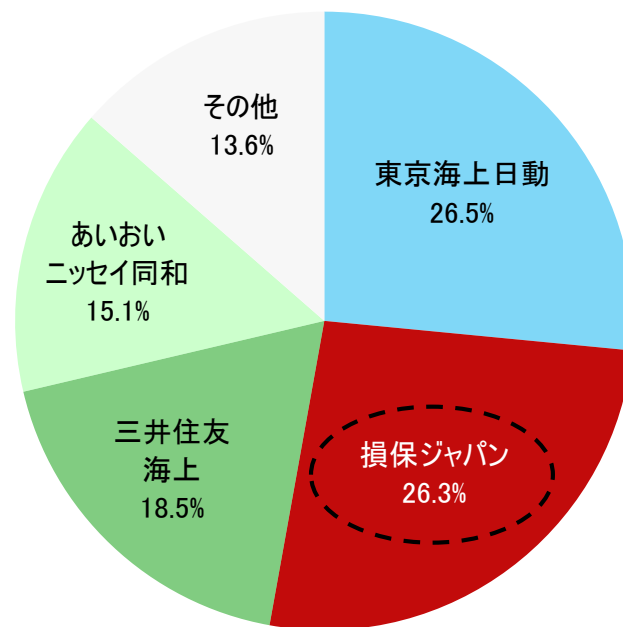
日本の損害保険市場(概要)と当社のポジション

◆ 自動車保険を中心に保険料収入が拡大、上位4社で9割弱のシェアを占めており、収益の安定性は高い

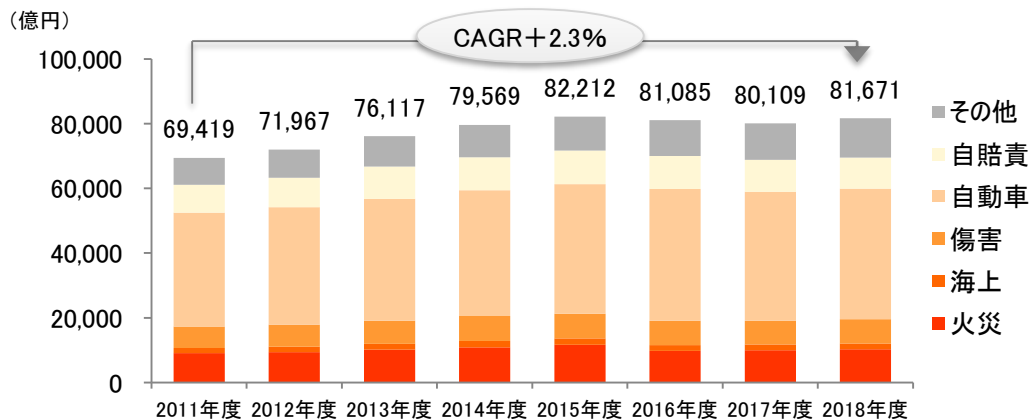
国別の損害保険市場規模※1 (2018年度)



日本における損害保険市場のマーケットシェア※2 (2018年度)



日本における損害保険料の推移※2



出典: Swiss Re “Sigma Report”、保険研究所“Insurance”

※1 名目元受総収入保険料ベース

※2 再保険会社を除く、国内に法人格又は支店を有する元受保険各社の、国内正味収入保険料総額ベース

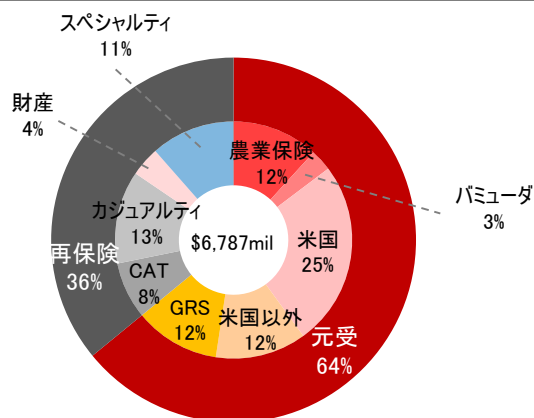
SI※1の主要指標

(\$mil)	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
グロス保険料	5,960	6,787	7,111
正味収入保険料	3,319	3,921	4,363
修正利益	177	320	377
総資産	19,888	23,797	—
純資産	5,752	6,662	—
コンバインド・レシオ	99.4%	96.2%	93.0%

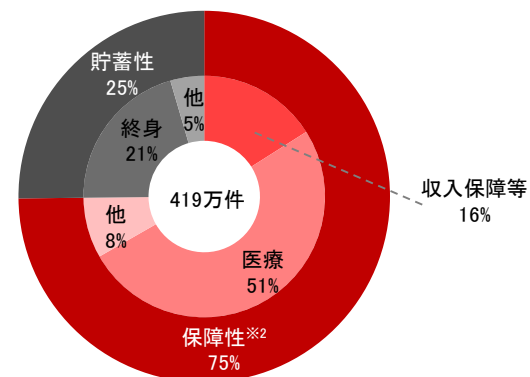
SOMPOひまわり生命の主要指標

(億円)	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
新契約年換算保険料	370	250	310
保険料等収入	4,444	4,465	4,536
経常利益	265	284	275
当期純利益	153	165	170
総資産	30,060	32,177	—
純資産	1,578	1,476	—

グロス保険料の種目別構成比(2019年度)



商品ポートフォリオ(保有契約件数ベース、2019年度末)



※1 SI企業部門を指す(以下同様)。旧Sompoアメリカ、Sompoメキシコ、SJNKヨーロッパを含む

※2 主に医療保険、がん保険、収入保障保険、定期保険(長期など除く)

1. SOMPOホールディングスについて

P1

2. 経営戦略

P6

(1) グループ経営

P6

(2) 事業別進捗

P20

(3) ERM・資本政策・資産運用

P38

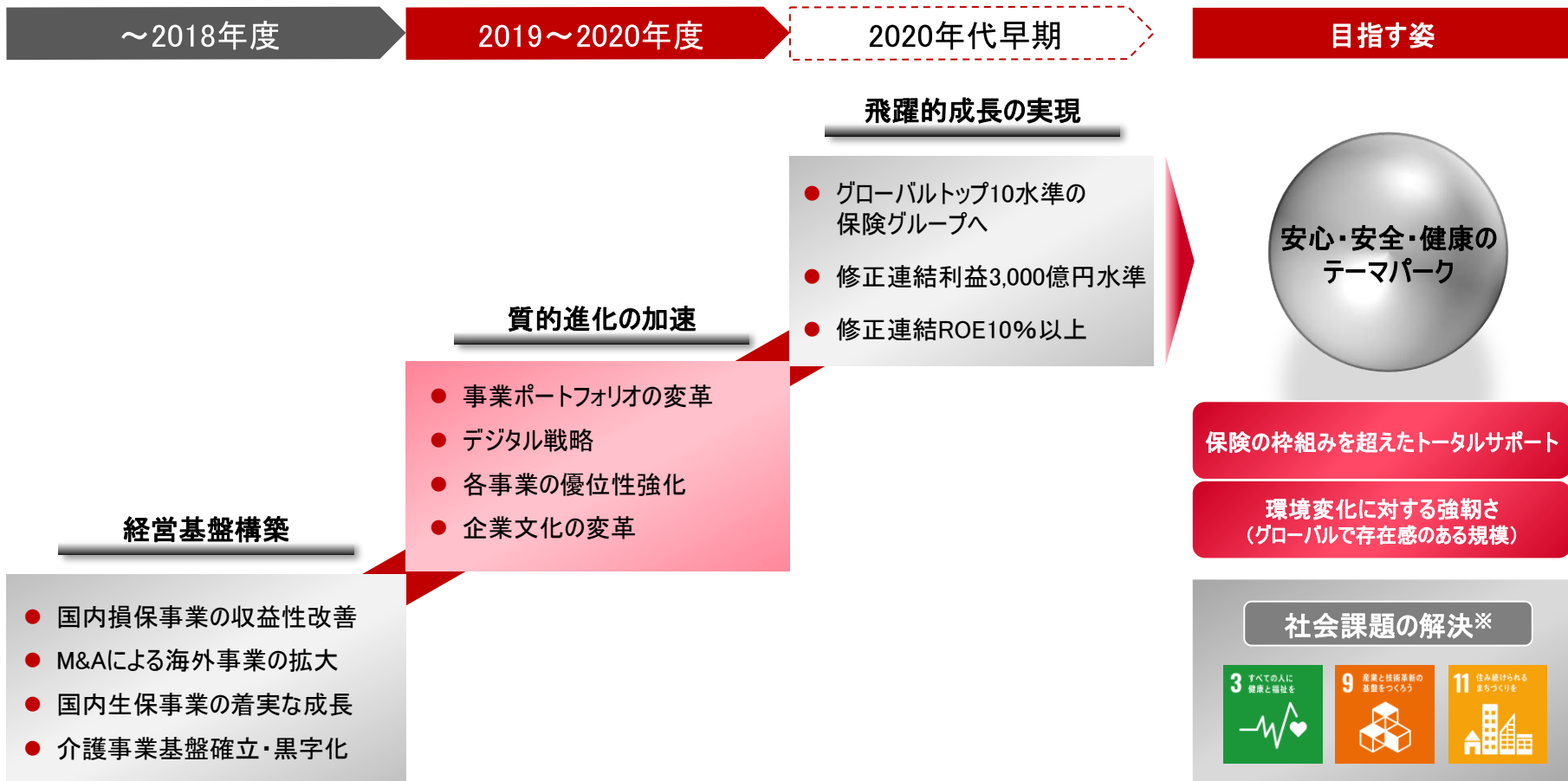
参考資料

P46

このページは空白です

中期経営計画の全体像

- ◆ 中期経営計画は2016～2020年度の5年間
- ◆ 中計後半は2020年代の飛躍的成長に向けた質的進化に注力
- ◆ 中長期的には、安心・安全・健康に資する最高品質のサービスを提供し、社会課題の解決と企業価値向上を図る

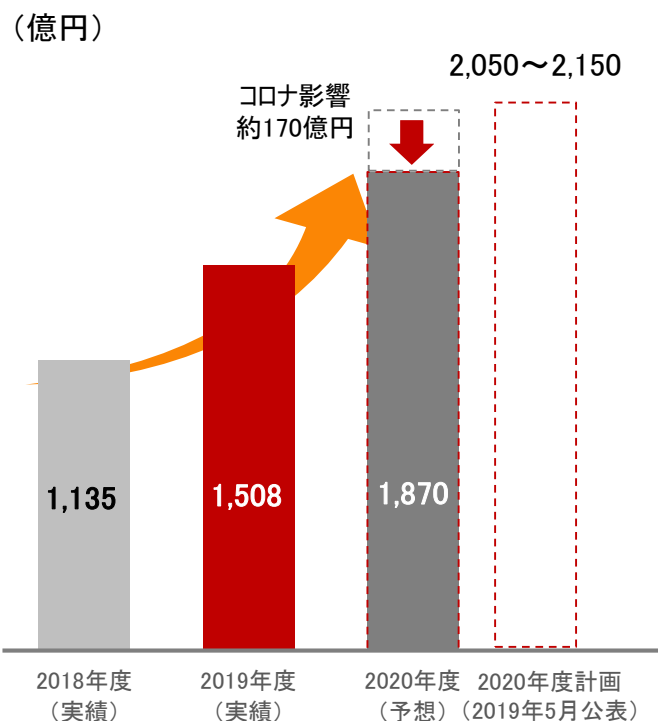


※ 国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の中から、当社が事業を通じて達成する主目標を抜粋

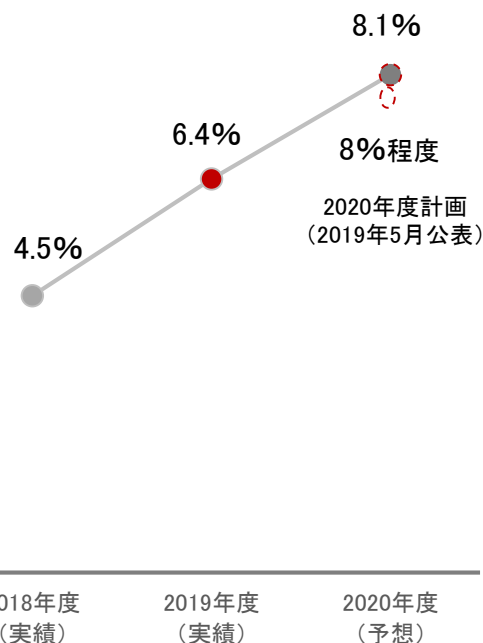
中期経営計画の進捗

- ◆ 2020年度業績予想は前年実績対比+361億円の増益となる一方で、計画を若干下回る見込み
- ◆ 新型コロナ影響の見通しは不透明であるものの、これまでの中計の施策は着実に進捗
- ◆ 利益成長に伴い、2020年度は7期連続となる増配予想

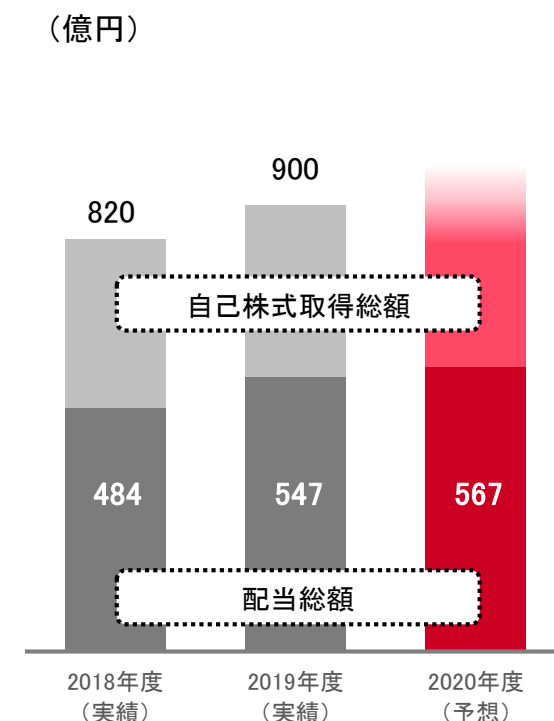
修正連結利益



修正連結ROE

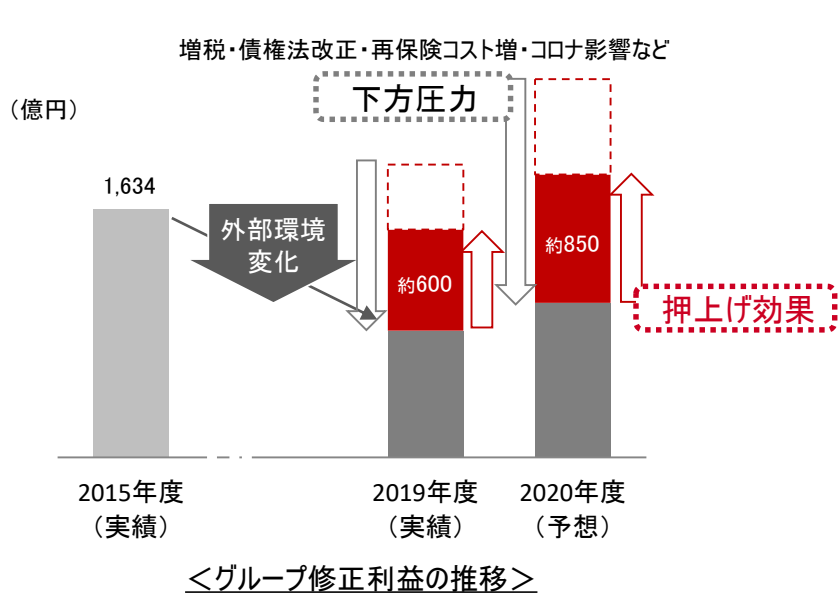


総還元額



(参考)グループのレジリエンスの強化の歩み

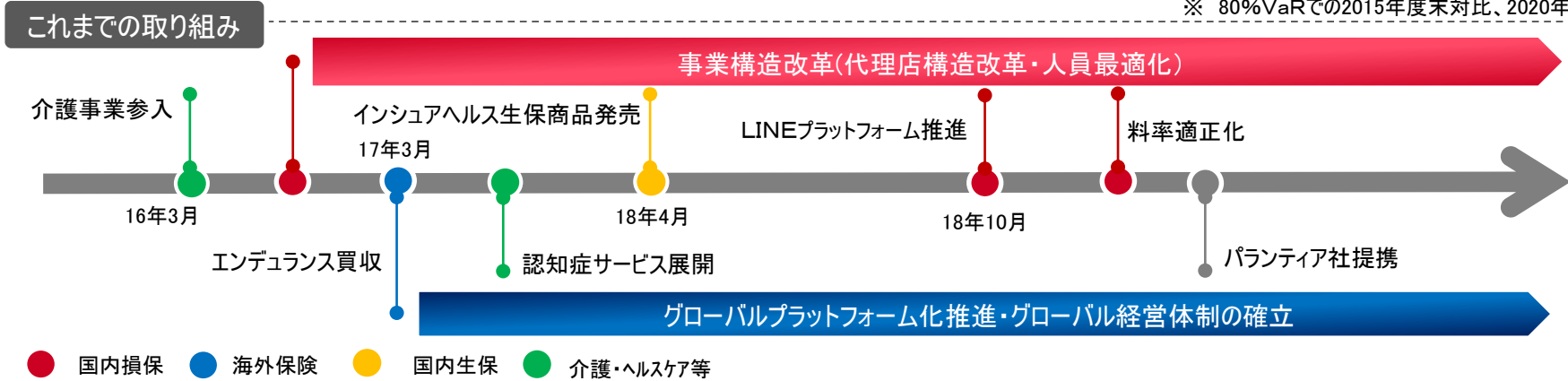
- ◆ これまでの施策により、グループのレジリエンスは強化
- ◆ コロナ禍においても、積極的な当社のデジタル戦略が強固な事業基盤を下支え



レジリエンス強化

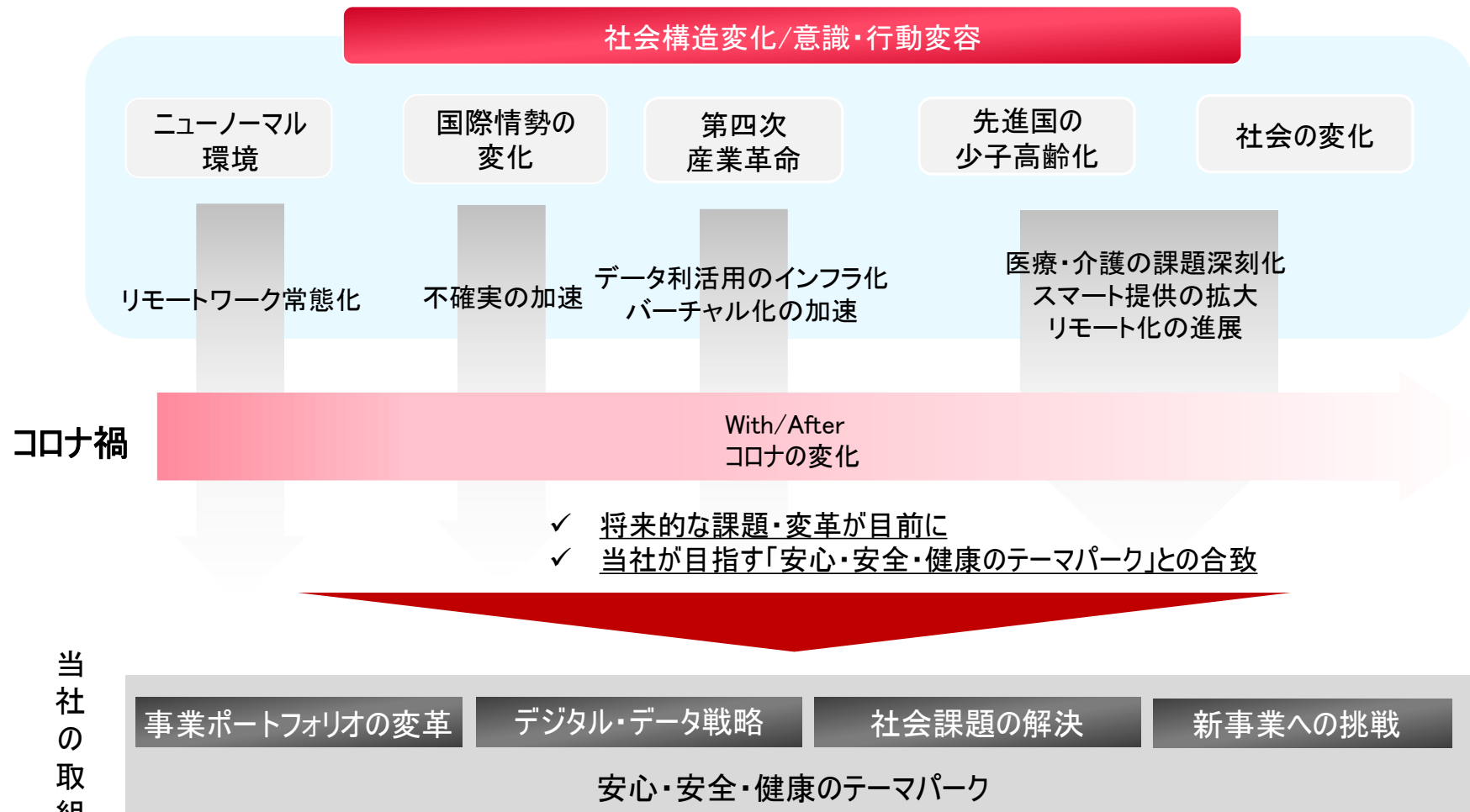
- 2019年度修正利益押し上げ効果 (2015年度末対比)
- 既存事業の収益性向上 +200億円程度
 - 地理的分散(海外M&A) +350億円程度
 - 収益源の多様化 +60億円程度
 - 風水災リスク量削減 $\Delta 15\%$ 程度*
 - デジタル戦略の推進・企業文化の変革

* 80%VaRでの2015年度末対比、2020年4月時点



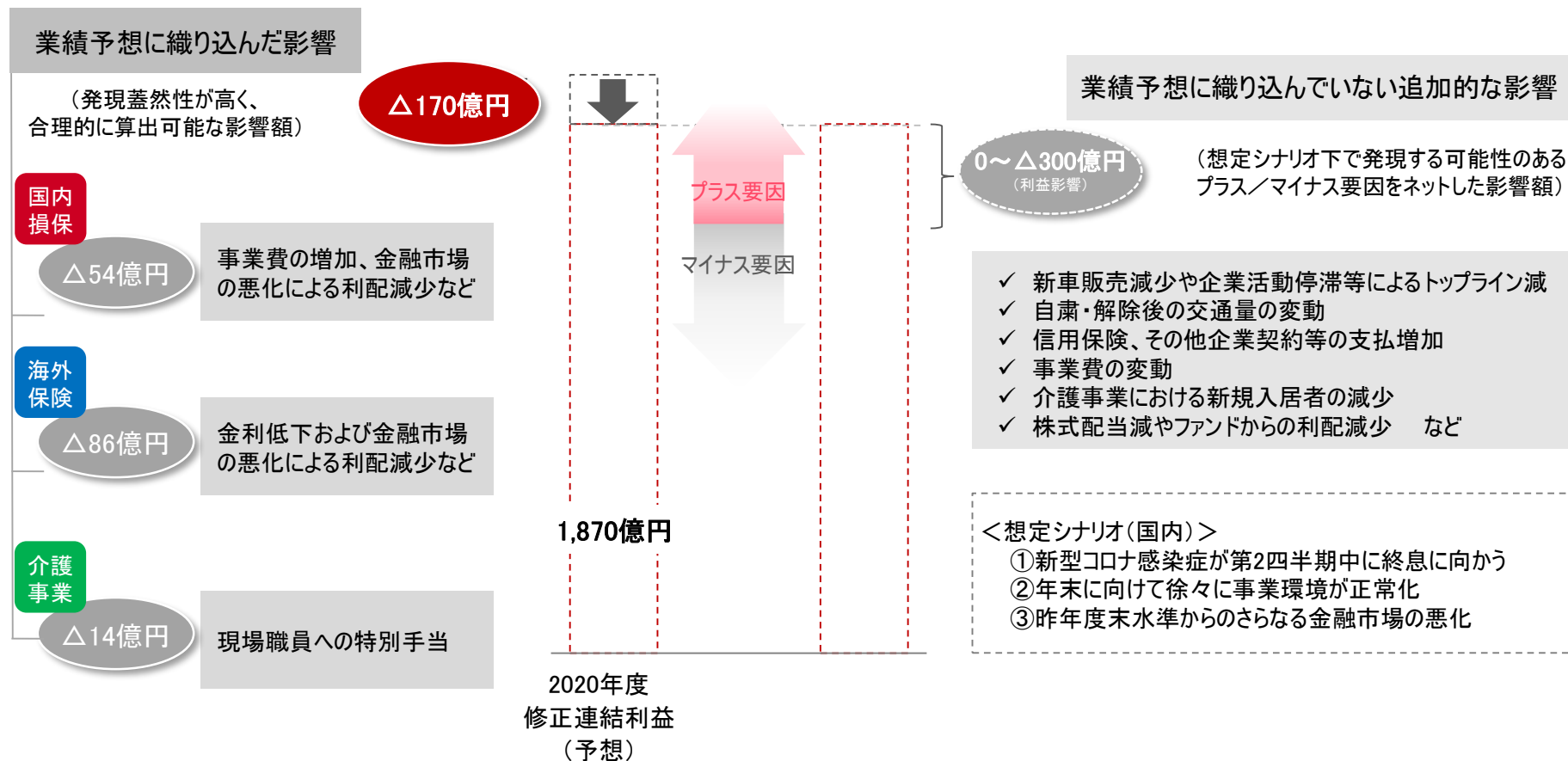
With/Afterコロナの社会構造変化・行動変容

- ◆ VUCAの時代を勝ち抜くため、グループのトランスフォーメーションに向けた施策を実行
- ◆ コロナ禍によって、今後、社会構造や意識・行動は大きく変化し、将来の課題が目前に



(参考) 新型コロナウイルス感染拡大などの影響

2020年度予想への影響



2020年度重点課題① 規模と分散～レジリエンスの強化～

- ◆ さらなる料率適正化・損害率の改善を推進
- ◆ 働き方改革を推進、アウトプット主義の定着による付加価値向上を狙う

利益押し上げ効果※1
+約200億円

損害率改善



+約90億円

✓ 企業向け収支改善など(国内)

+約70億円

✓ SIと連携したアンダーライティング(海外)※2 +約20億円

料率適正化



+約70億円

- ✓ リテール分野料率改定(国内)
- 自動車・火災・傷害保険

火災保険 +約7% 自動車保険 +約3.5% 火災保険
傷害保険 +約4% +α%



生産性向上
(主に国内事業費削減)



+約40億円

- ✓ リモートワーク体制強化への投資
- ✓ 販売網構造改革の推進
- ✓ デジタル保険金支払体制(生損保)

在宅勤務割合※3

約85%

2020年度末人員削減数(計画)

△4,000人

現在、約△3,000人※4で計画を上回るペース

デジタル活用

※1 2019年度対比修正利益増益効果概算値

※2 損保ジャパン社における2020年度の海外受再収支

※3 損保ジャパン社データ(2020年4月末時点、本社部門)

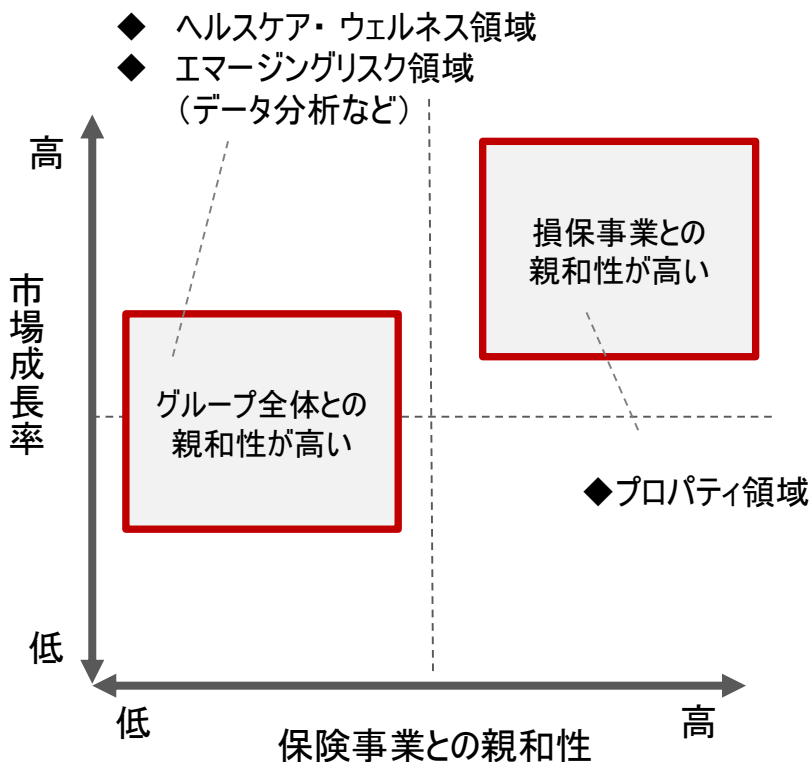
※4 損保ジャパン社データ(2017年4月1日対比、2020年3月末時点)

2020年度重点課題② -事業領域の拡大およびデータ戦略-

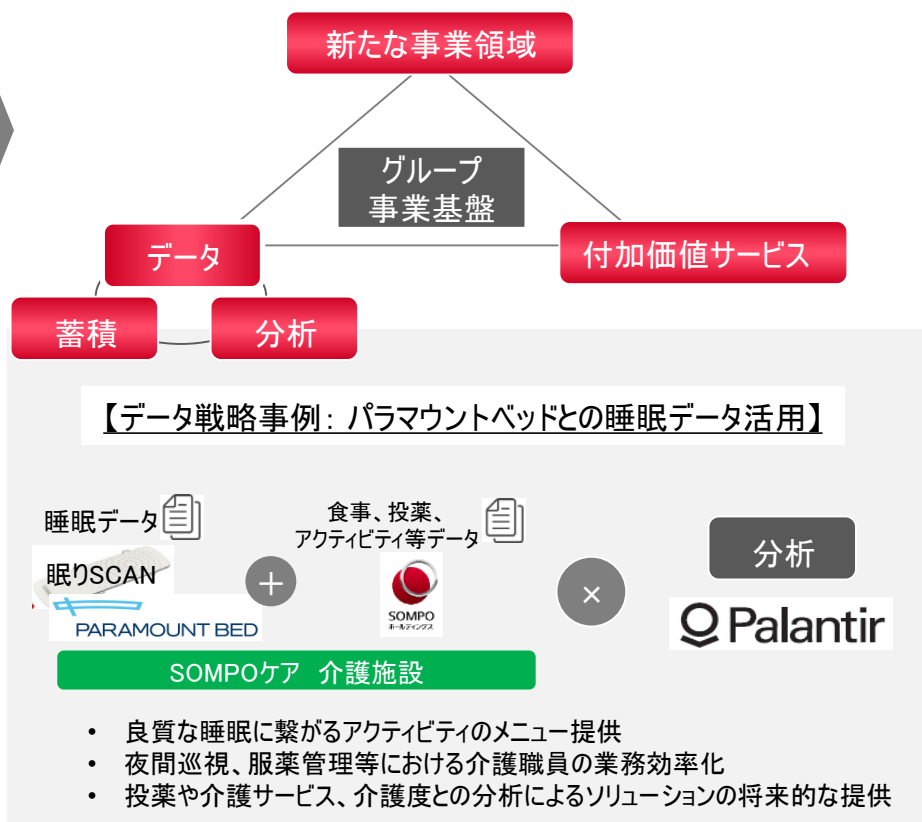
- ◆ 既存事業との親和性の高い新たな事業領域を設定
- ◆ 新事業の利益成長とともにデータ活用によるグループ強化の好循環サイクル構築を目指す

新たな重点検討事業領域

<重点検討する新たな事業領域>



<新たな事業領域におけるビジネスモデル>

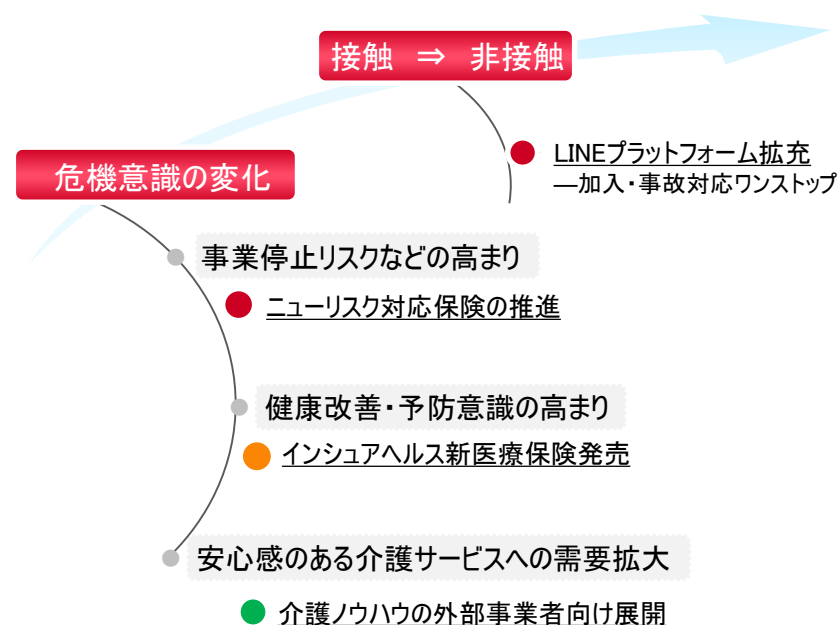
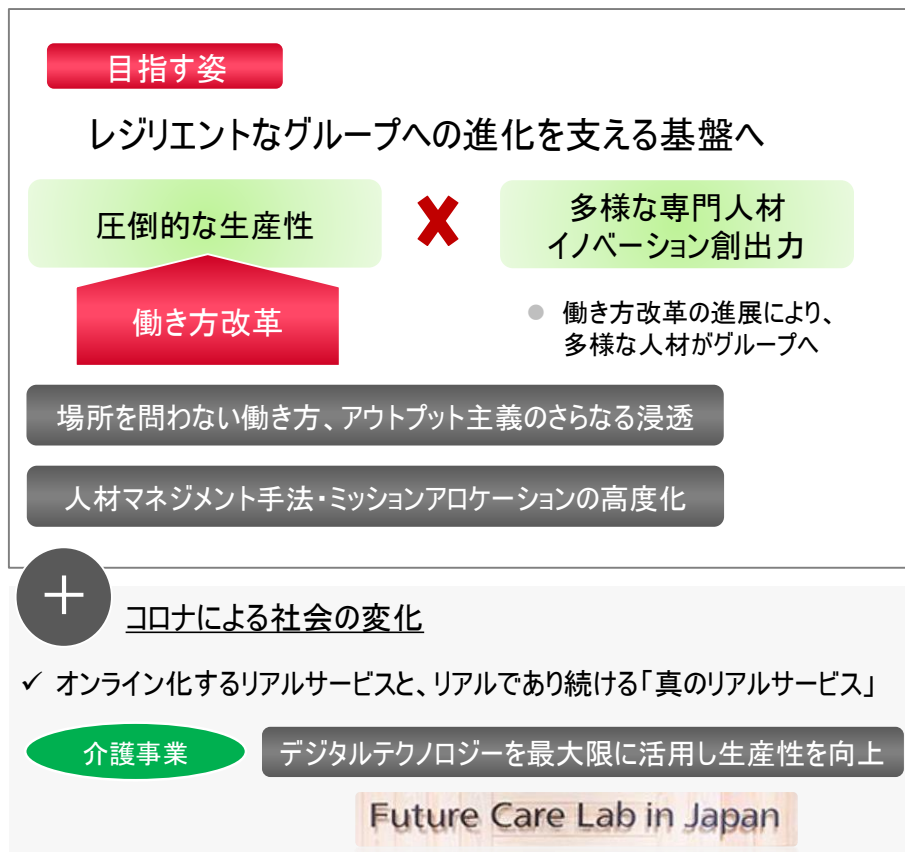


2020年度重点課題③ -With/Afterコロナを見据えた対応-

- ◆ コロナを奇貨として働き方改革を加速、グループのトランスフォーメーションを支える基盤へ
- ◆ 市場ニーズの変化に柔軟に対応し、ビジネスチャンス適切に捉える

コロナを奇貨とした働き方改革の加速

市場ニーズの変化への対応

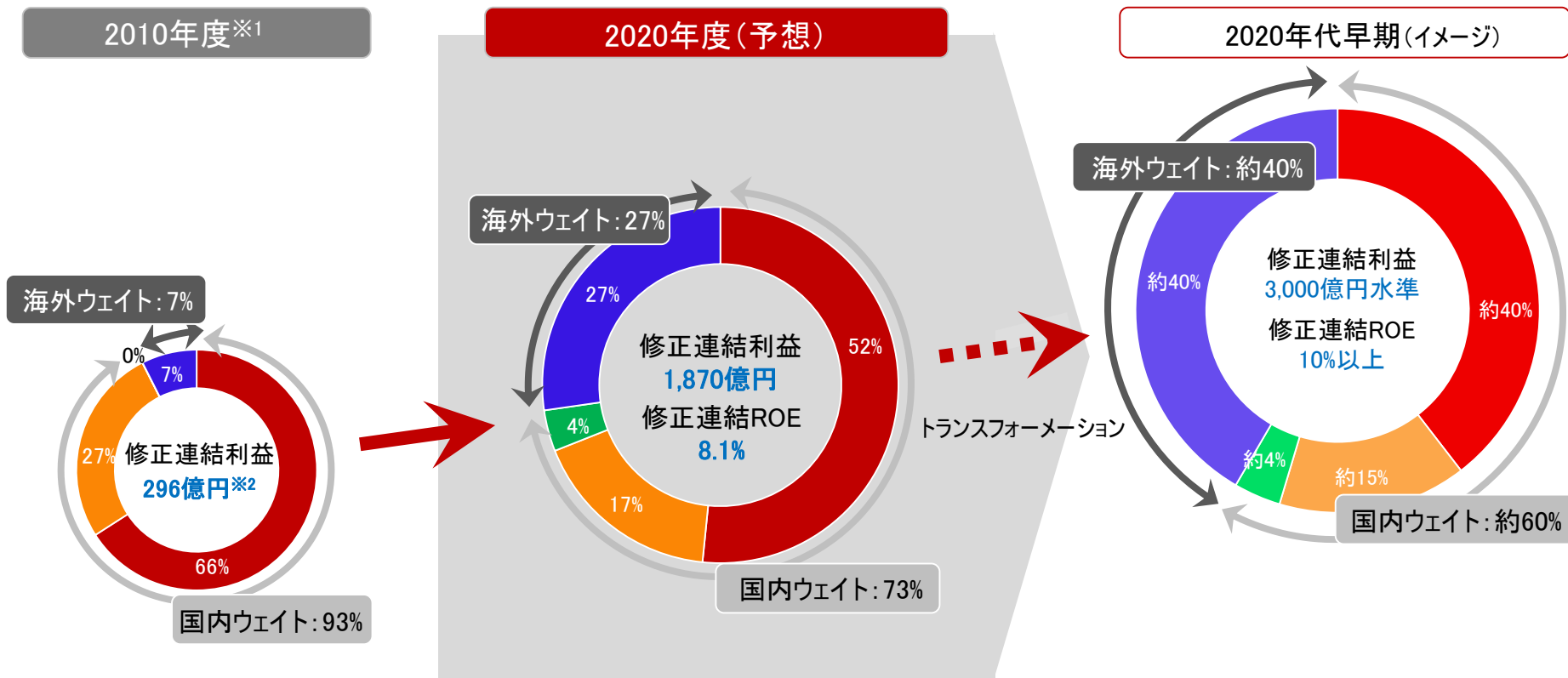


(参考) 事業ポートフォリオの変遷

◆ グループ全体の事業リスク分散を進め、バランスの取れた事業ポートフォリオを実現していく

事業ポートフォリオ最適化のイメージ

■ 国内損保事業 ■ 海外保険事業 ■ 国内生保事業 ■ 介護・ヘルスケア事業等

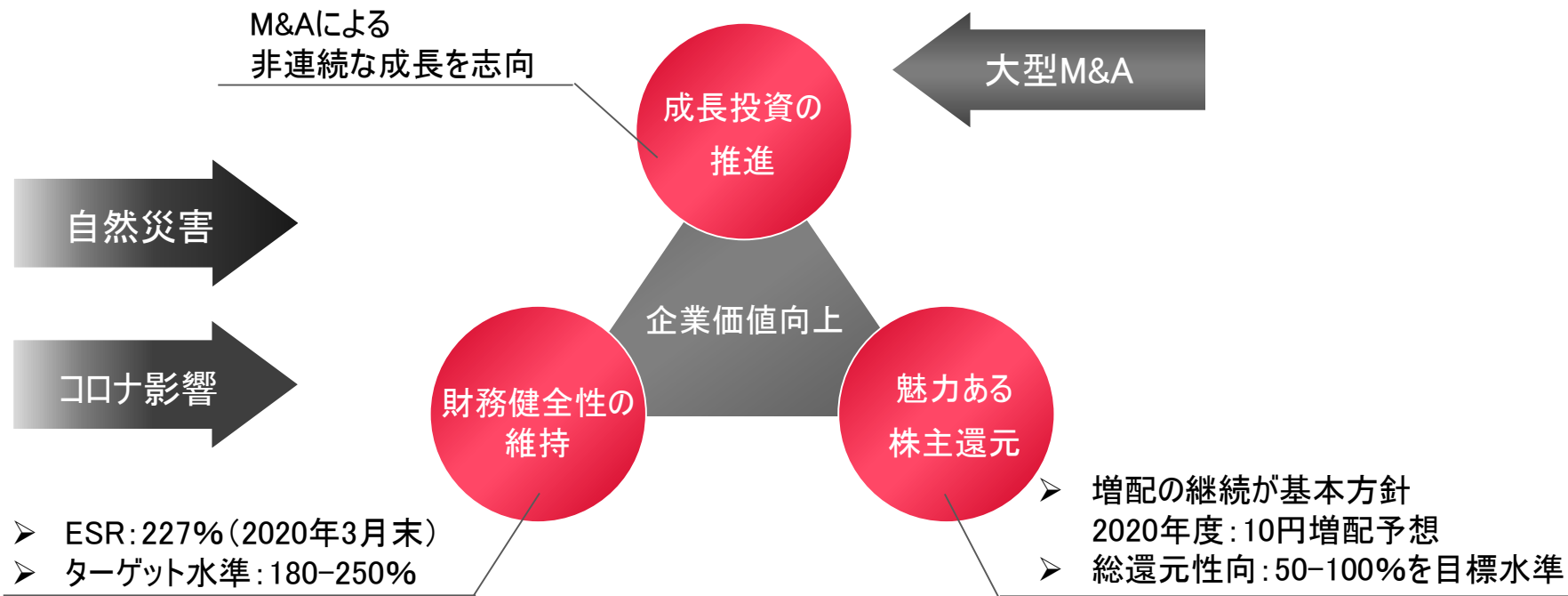


※1 SOMPOホールディングス発足年度
 ※2 現在の修正利益定義をベースとした試算値

資本政策／株主還元方針

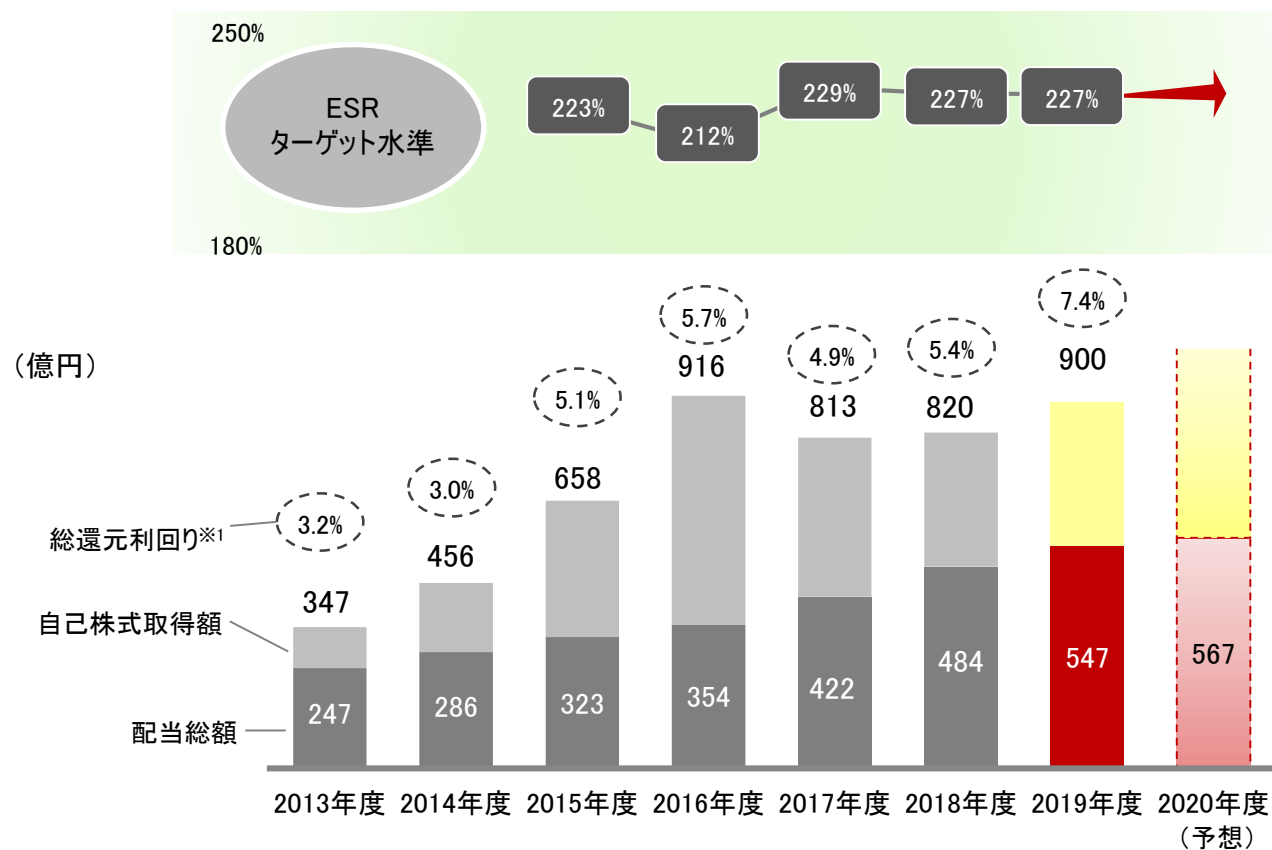
- ◆ 成長投資・財務健全性・株主還元のバランスのとれた資本政策が基本
- ◆ 株主還元方針に変更なし、2020年度は7期連続増配へ
- ◆ 今期の総還元性向は、中期的なコロナ影響の見通しや資本水準、成長投資機会の有無などを総合的に判断した上で検討していく

資本政策の考え方



(参考)株主還元実績

強固な財務健全性(ESR)と株主還元ストーリー



<株主還元方針>

- 財務健全性や業績等を勘案し、魅力ある株主還元を目指す
- 総還元性向は50%~100%を目標水準とし、大型M&A有無や資本水準等を総合的に考慮し、株主還元額を機動的に決定する
- 増配の継続を基本方針とする
※配当と自己株式取得のバランスは株価水準や配当利回りなどを踏まえて毎期決定

総還元性向※2	220%	50%	50%	50%	50%	72%	60%	-
1株あたり配当金(円)	60	70	80	90	110	130	150	160
(参考)年度末株価	2,652円	3,735円	3,188円	4,079円	4,282円	4,098円	3,343円	-

※1 総還元利回り=(配当総額+自己株式取得額)/年度末株式時価総額

※2 総還元性向=(配当総額+自己株式取得額)/修正連結利益

(参考) 経営数値目標等

計画数値

(単位: 億円)	2019年度	2020年度		
	(実績)	(予想)	対前年増減	(参考) 2019年5月公表計画
国内損保事業	608	965	+356	950以上
海外保険事業	501	510	+8	650以上
国内生保事業	320	325	+4	370以上
介護・ヘルスクア事業等	77	70	△7	80以上
合計(修正連結利益)	1,508	1,870	+361	2,050~2,150
修正連結ROE※2	6.4%	8.1%	+1.8pt	8%程度
ROE(J-GAAPベース)	7.3%	9.4%	+2.1pt	9.5%程度

修正連結利益※1の定義

国内損保事業

当期純利益
 + 異常危険準備金繰入額等(税引後)
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)
 - 有価証券の売却損益・評価損(税引後)

海外保険事業

当期純利益(主な非連結子会社含む)
 なお、SIのみOperating Income※3

国内生保事業

当期純利益
 + 危険準備金繰入額(税引後)
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)
 + 責任準備金補正(税引後)
 + 新契約費繰延(税引後)
 - 新契約費償却(税引後)

介護・ヘルスクア事業等

当期純利益

※1 事業部門別修正利益は、一過性の損益またはグループ会社配当等の特殊要因を除く。

※2 修正連結ROE=修正連結利益÷修正連結純資産(分母は、期首・期末の平均残高)

修正連結純資産=連結純資産(除く国内生保事業純資産)+国内損保事業異常危険準備金等(税引後)+国内損保事業価格変動準備金(税引後)+国内生保事業修正純資産
 国内生保事業修正純資産=国内生保事業純資産(J-GAAP)+危険準備金(税引後)+価格変動準備金(税引後)+責任準備金補正(税引後)+未償却新契約費(税引後)

※3 SIのOperating Income=当期純利益-為替損益-有価証券売却・評価損益-減損損失など

1. SOMPOホールディングスについて

P1

2. 経営戦略

P6

(1) グループ経営

P6

(2) 事業別進捗

P20

(3) ERM・資本政策・資産運用

P38

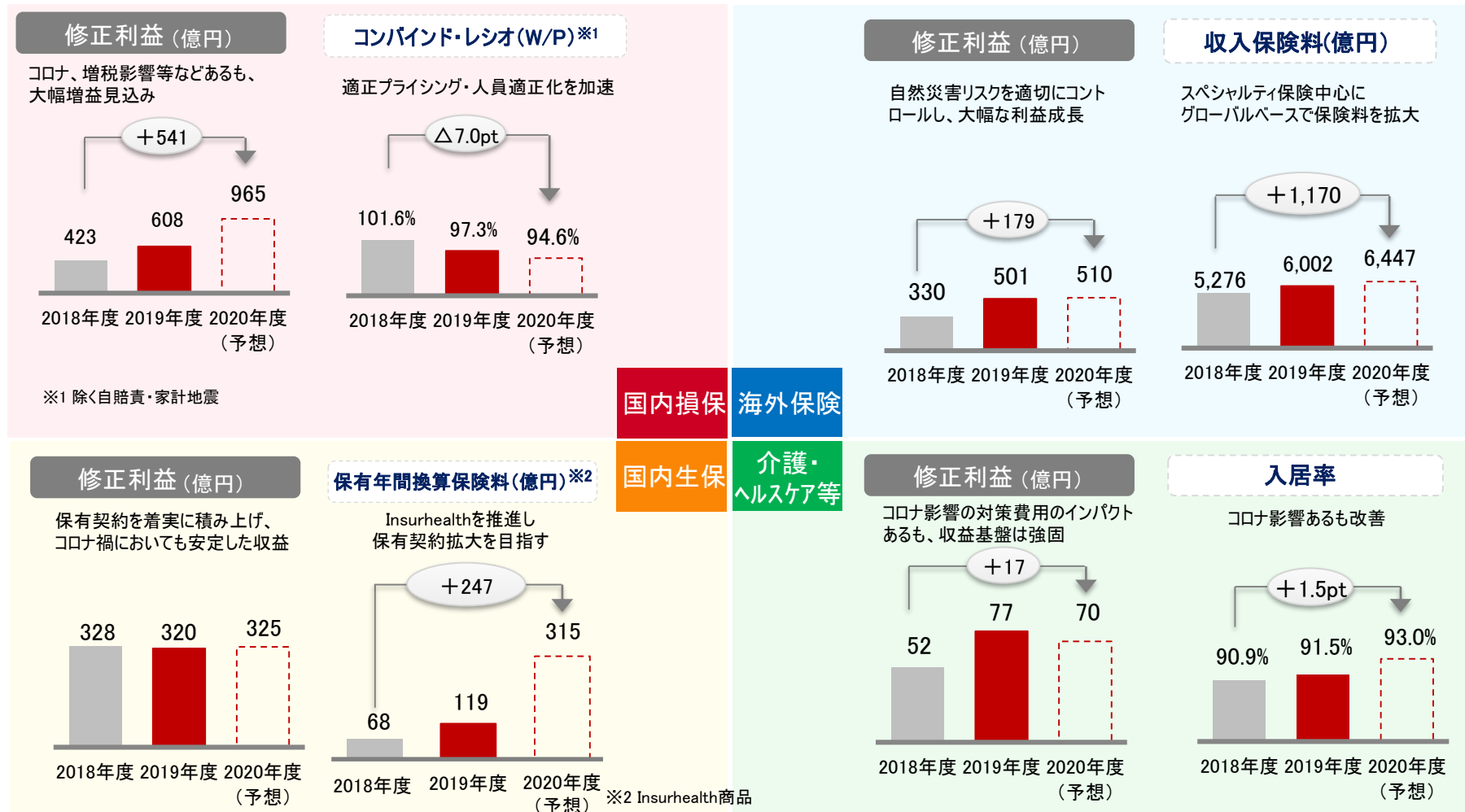
参考資料

P46

中期経営計画の事業別進捗

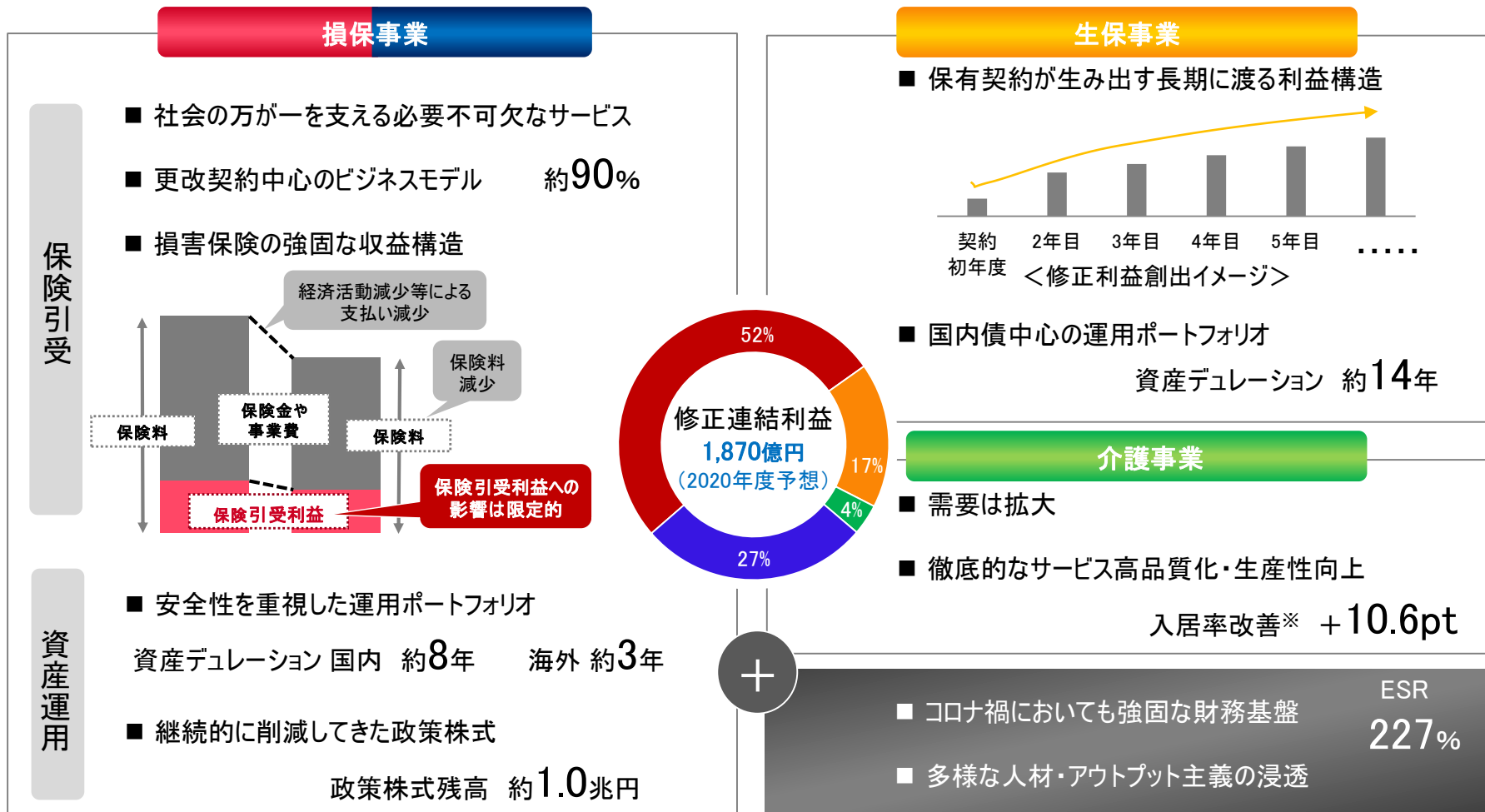
◆ コロナ影響は一定あるものの、各事業で増益基調を継続

事業別修正利益と主要KPI



(参考) 逆境下においても強固な事業基盤

◆ 経済情勢の先行きはまだまだ不透明である一方、当社の損保事業を中心した収益構造は安定的



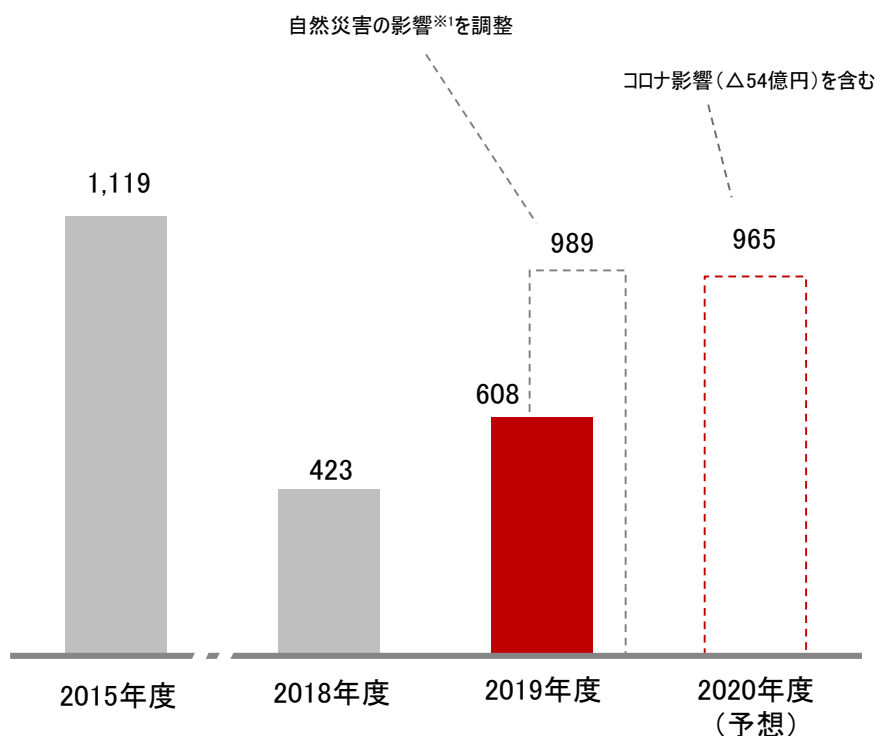
■ 国内損保事業
 ■ 海外保険事業
 ■ 国内生保事業
 ■ 介護・ヘルスケア事業等

※本格参入後対比の19年度末時点

- ◆ 将来の環境変化に備え、AI・RPA・ITシステムなどへの先行投資による効率化・質的進化を実現
- ◆ 徹底した料率最適化などの商品ポートフォリオの変革を果たし、さらなる利益成長・安定化を目指す

修正利益計画

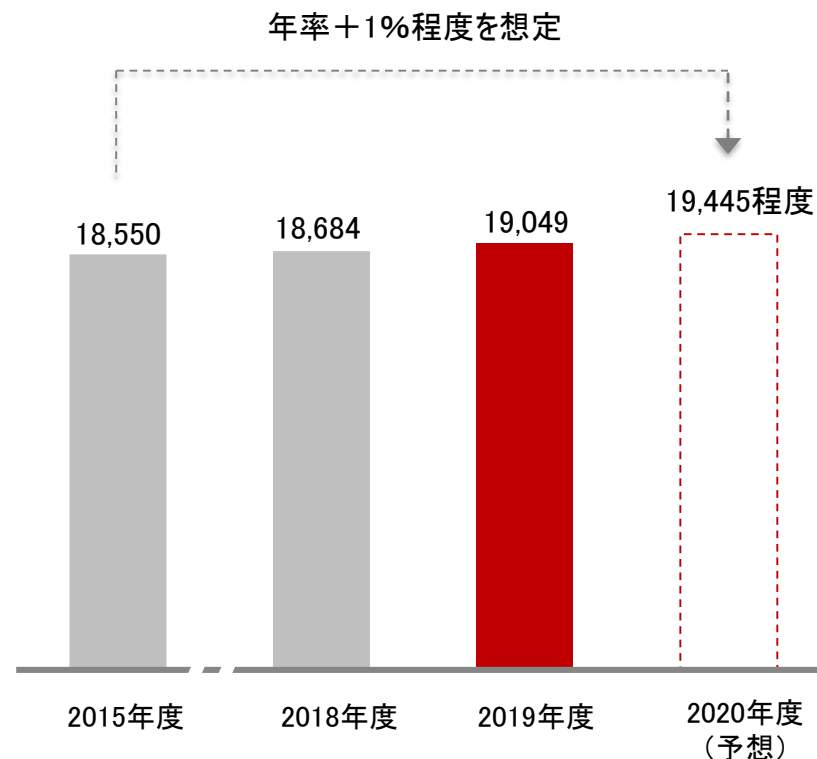
(億円)



※1 国内自然災害の発生損害額を530億円(2019年度期初業績予想での見込額)として、修正連結利益を調整

正味収入保険料(損保ジャパン)※2

(億円)



※2 海外グループ会社へ段階的に移管した受再契約分を補正して表示
移管対象額(約600億円)のうち各期の未移管分を控除。
除く自賠償・家計分野地震保険

◆ 収益性向上に加え、お客さまのニーズ変化を捉えた質的進歩が進展

① 既存ビジネスの生産性向上

品質改善と生産性向上に向けた取組を強化、お客さま満足度も向上

デジタル生産性

- ・RPA240案件、90万時間超創出
- ・ナレッジマネジメント、タッチポイントへのAI活用

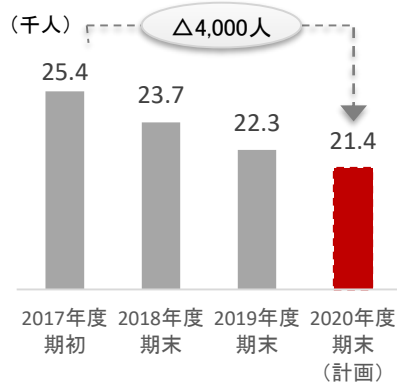
販売網構造改革

- ・高品質かつ自立した代理店の育成
- ・代理店での業務完結による品質向上

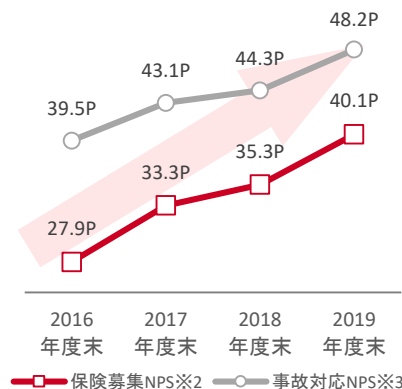
保険金サービス改革

- ・査定実務、お客さま接点でのデジタル活用と人材力強化
- ・広域災害の態勢と業務プロセスの再編

要員数※1の推移



お客さま満足度の推移



② 成長戦略

お客さまの数の継続的な拡大に向けて、「新たなお客さま接点」「新たな商品・サービス」を有機的に展開

LINEプラットフォーム

LINE事故対応件数



顧客接点+情報管理

AIチャットボット

満期通知配信

SOMPO Park

LINEプラットフォーム

事故対応

LINE事故対応

AI自動修理見積

8,300万人の
経済圏

保険商品

簡単に加入

お友達数1,100万人



LINE Financial

通販ビジネス(セゾン自動車火災)

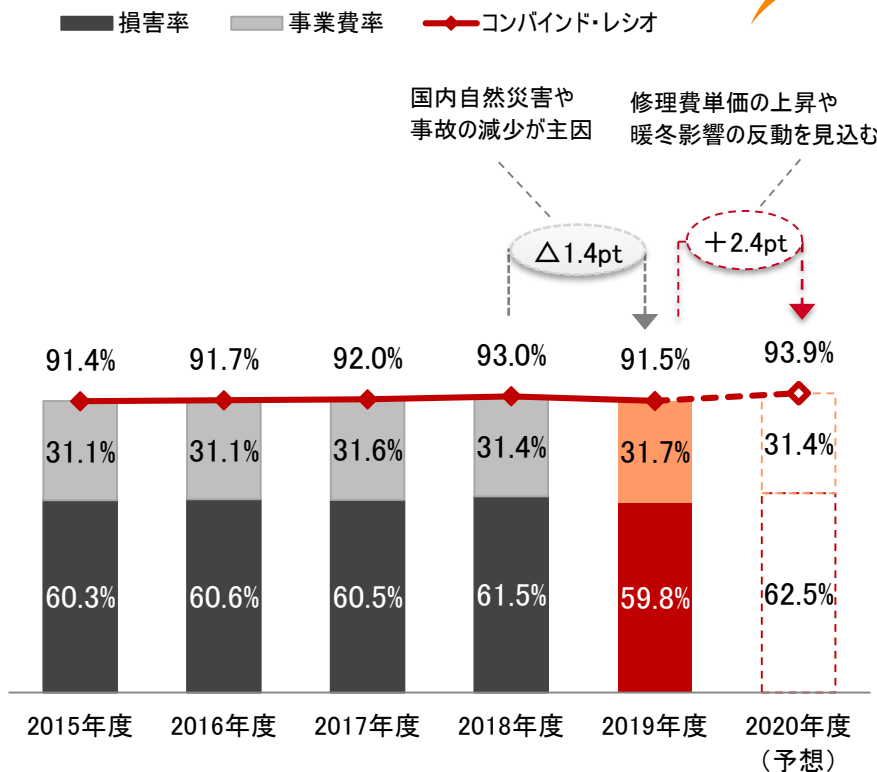


- ・特徴ある商品性などにより業界トップの増収率
- ・契約件数100万件突破、ダイレクト系損保で業界3位の規模へ

※1 損保ジャパンの業務従事者数ベース ※2 自動車保険の契約手続きにおける、はがき+WEB回報のNPS(ネットプロモータースコア) ※3 自動車保険の事故対応における、はがき+WEB回報のNPS(ネットプロモータースコア)

◆ 消費増税・債権法改正を踏まえて、事業費削減に加えて、料率適正化を実施

コンバインド・レシオの推移



※ 損害率はE/1ベース(含む損調費)

料率適正化
(2020年1月~)

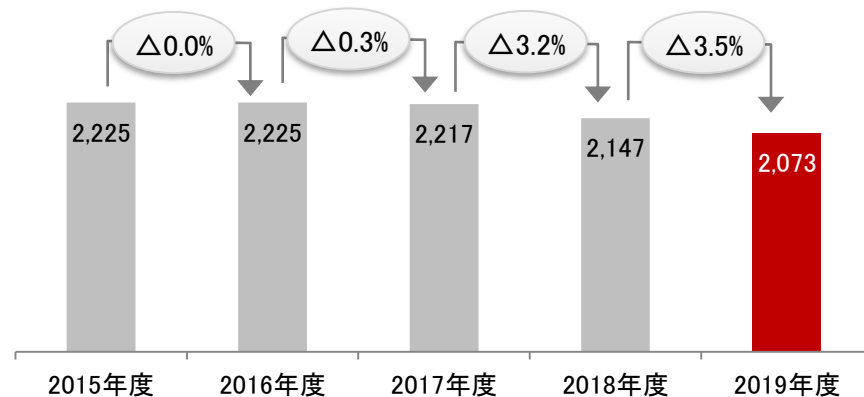
×

事業費削減

消費増税・債権法改正を踏まえて対応

事故受付件数の推移

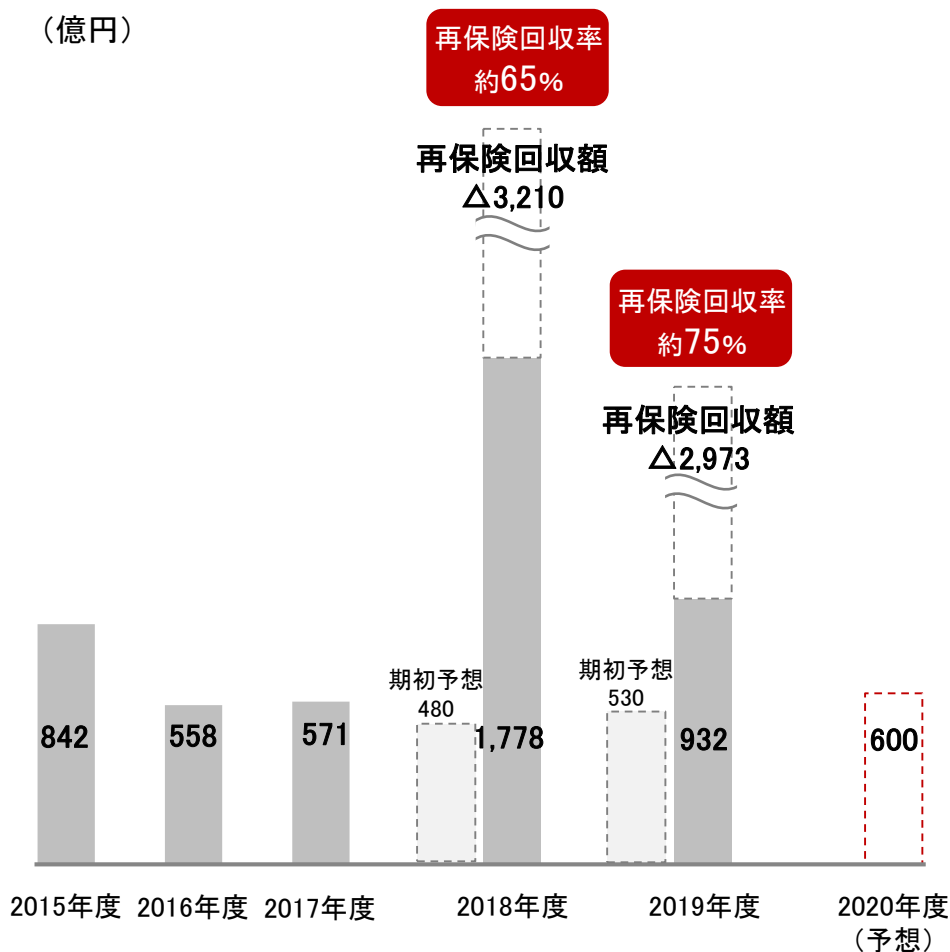
(千件)



※ 発生損害が一定額を超過した自然災害に係る件数を除く

国内自然災害の正味発生損害および国内自然災害リスクへの対応

(億円)



当社の国内自然災害リスク対応のポイント

最適な再保険プロテクション

- 自然災害の激甚化への対応
- 利益変動性のコントロール



2020年度プロテクション

- ✓ 大規模自然災害が複数回発生した場合のプロテクションを強化

フォワードルッキングなリスク認識

- 気候変動による自然災害影響をモデル上保守的に見込む (自然災害予算増額)

火災料率の適正化

- 保険料改定 (2019年10月)
- 参考純率見直しを踏まえた更なる料率最適化の検討

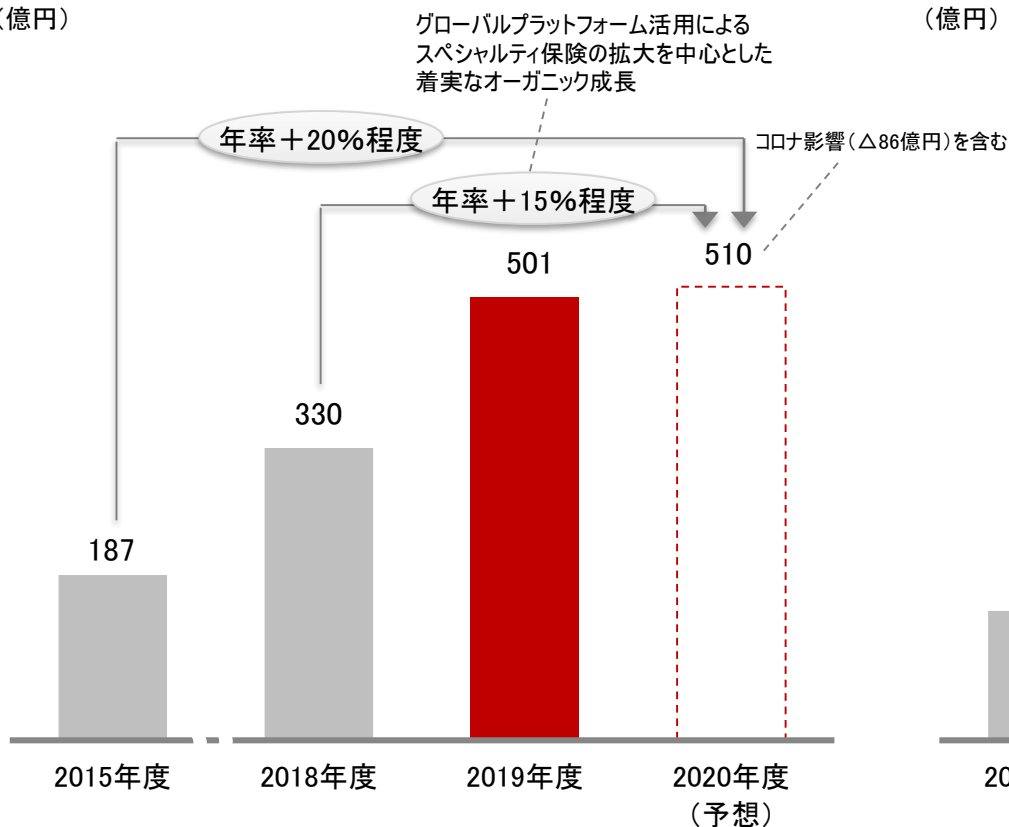
(参考)気候に関する公的機関の一般的な見解

	台風	豪雨
現在	発生数・強い台風の上陸数に明確な変化なし	発生回数が増加
中長期	・発生総数は減少 ・強い台風が増加	大雨と短時間強雨の年間発生回数が増加

- ◆ スペシャルティ保険の拡大を中心とした着実なオーガニック成長により、利益を拡大
- ◆ コマーシャル・リテールの両プラットフォームの活用により、海外保険事業ウエイトのさらなる拡大を目指す

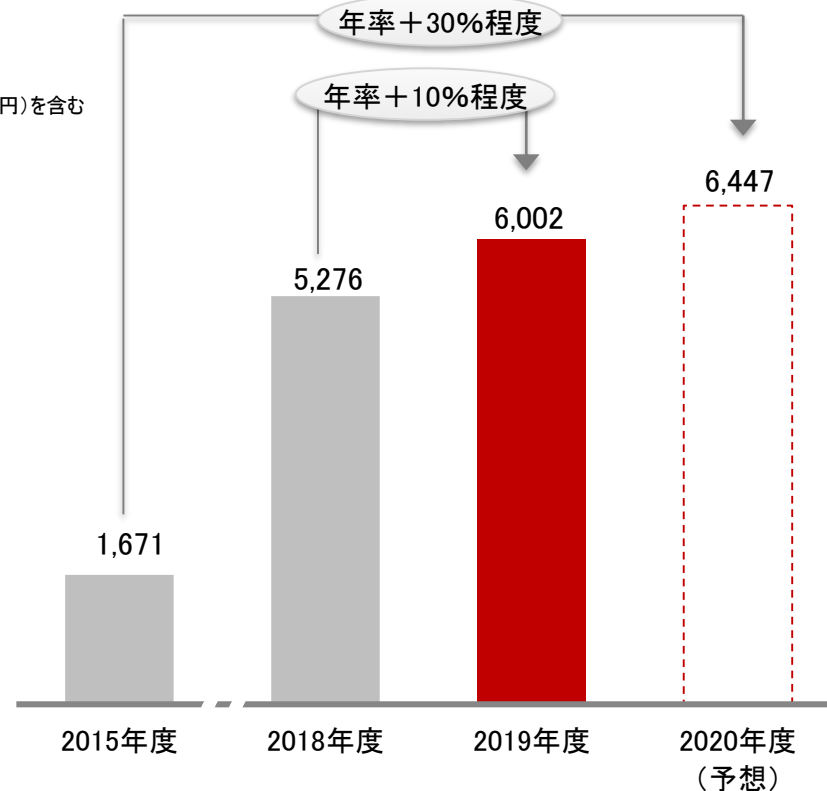
修正利益計画

(億円)



収入保険料※

(億円)



※ 収入保険料は、売却が完了したSompoキャンピウス分を控除
また、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる

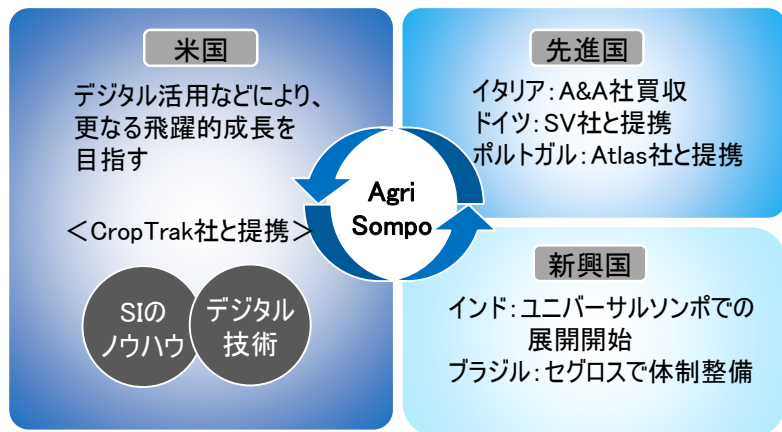
- ◆ グローバルプラットフォーム活用とボルトオンM&Aにより、農業保険分野のプレゼンスを継続的に向上
- ◆ リテール分野での収益強化、既存事業の選択と集中も進め、持続的・安定的な成長を目指す

① 農業保険の拡大加速

専門性強化

- AgriSompolによるグローバル展開をさらに加速
- 米国内・グローバルでのさらなる地域分散・規模拡大をめざす

<農業保険拡大戦略>



② リテールプラットフォームによる成長戦略

統合加速

- 既存グループ会社の統合を加速
- 2020年度内に主要会社の統合を完了予定

<リテールプラットフォームの拡大>



収益強化

- シンガポールの自動車保険プライシングノウハウなどを各社で共有開始

<シンガポールの自動車保険*ノウハウのグローバル展開>

40%成長

(2019年度既経過保険料)

92.3%

(2019年度コンパインド・レシオ)
同業他社比でも良好な水準

ノウハウ共有により
グループの収益強化

* 任意自動車保険

③ 既存事業の収益性向上

選択・集中

- 欧州事業を再編、ロイズ事業から撤退

+

セレクトティブなボルトオンM&A

地域分散と規模拡大による収益性向上

グループ会社別業績(2019年度)

(単位: 億円)		収入保険料			修正利益			ポイント	(参考) 為替レート	
		2019年度		2020年度	2019年度		2020年度		2019年12月※2 (対前年為替影響)	
		実績	増減	予想	実績	増減	予想			
欧米	SI	4,295	+610	4,748	351	+153	410	※P50ご参照	109.56 円/米ドル	(△1.3%)
アジア・ 中東	Sompoシゴルタ (トルコ)	405	+86	442	82	+13	46	2019年度は自動車保険等の増収に加え、損害率も改善、 2020年度は通貨安や金利低下による運用収入減を見込む	18.42 円/リラ	(△12.2%)
	Sompo シンガポール	77	+1	75	1	△2	6	2020年度は、保険引受の厳格化による損害率改善を見込む	81.07 円/SGドル	(+0.1%)
	ベルジャヤソンプ (マレーシア)	144	+4	148	14	+3	12	2019年度は運用収益が好調に推移	26.61 円/リンギット	(△0.3%)
	Sompo インドネシア	65	△0	80	5	+4	5	2019年度は損害率改善が奏功、 2020年度は自動車保険中心に増収を見込む	0.0079 円/ルピア	(+2.6%)
	Sompo中国 NK中国	63	+9	75	9	+0	6	-	15.67 円/人民元	(△3.0%)
	Sompo香港	35	△3	35	2	△2	3	-	14.07 円/香港ドル	(△0.8%)
	ユニバーサルソンプ (インド)	74	+8	90	7	+0	3	2019年度は農業保険が好調に推移、 2020年度は自動車保険中心に増収を見込む	1.46 円/ルピー	(△9.3%)
	AYA SOMPO (ミャンマー)	-	-	2	-	-	0	2020年度から連結開始	0.0737 円/チャット	(-)
南米	Sompoセグロス (ブラジル)	803	+7	702	20	△2	15	2019年度は保険引受の厳格化により損害率改善、 2020年度は自動車保険中心にリアル建てでは増益見込み	27.07 円/リアル	(△5.5%)
上記以外(非連結)※1		35	△0	44	5	+2	0	-	-	-
合計		6,002	+725	6,447	501	+170	510	-	-	-

※1 Sompoタイランド、PGAソンプ(フィリピン)、ユナイテッドインシュアランス(ベトナム)の合計

※2 ユニバーサルソンプの為替レートは2020年3月末時点、通期業績予想における前提為替レートは2020年3月末時点を使用

このページは空白です

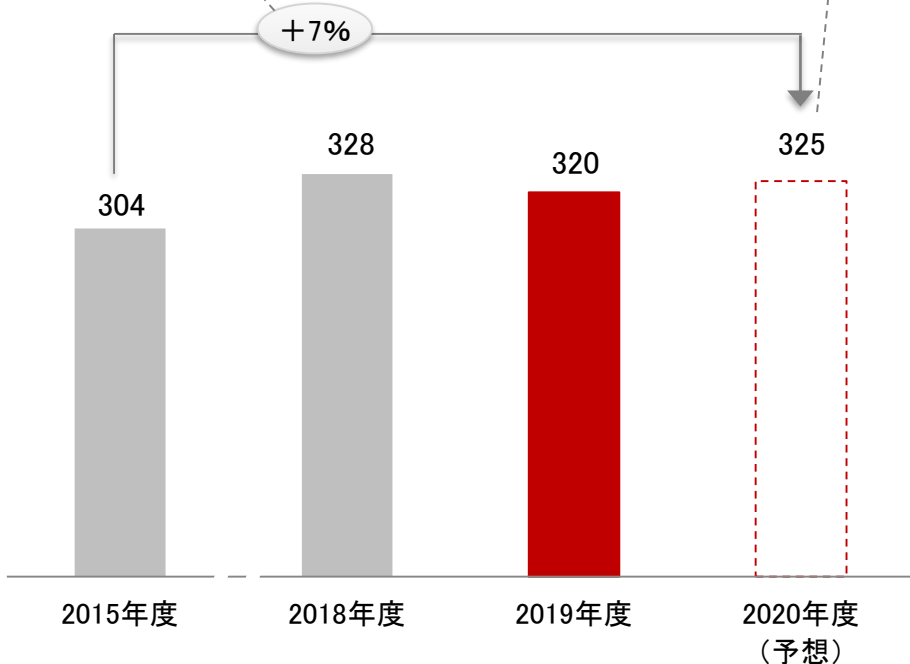
- ◆ 保障性商品を中心とした保有契約の着実な積み上げにより、安定した利益を確保
- ◆ 新医療保険の発売などInsurhealth(商品+サービス)の拡大を加速し、さらなる成長を目指す

修正利益計画

(億円)

医療保険・収入保障保険を中心に、新商品の適時投入による着実な保有契約の積み上げが主因

コロナ影響(△15億円)を含む

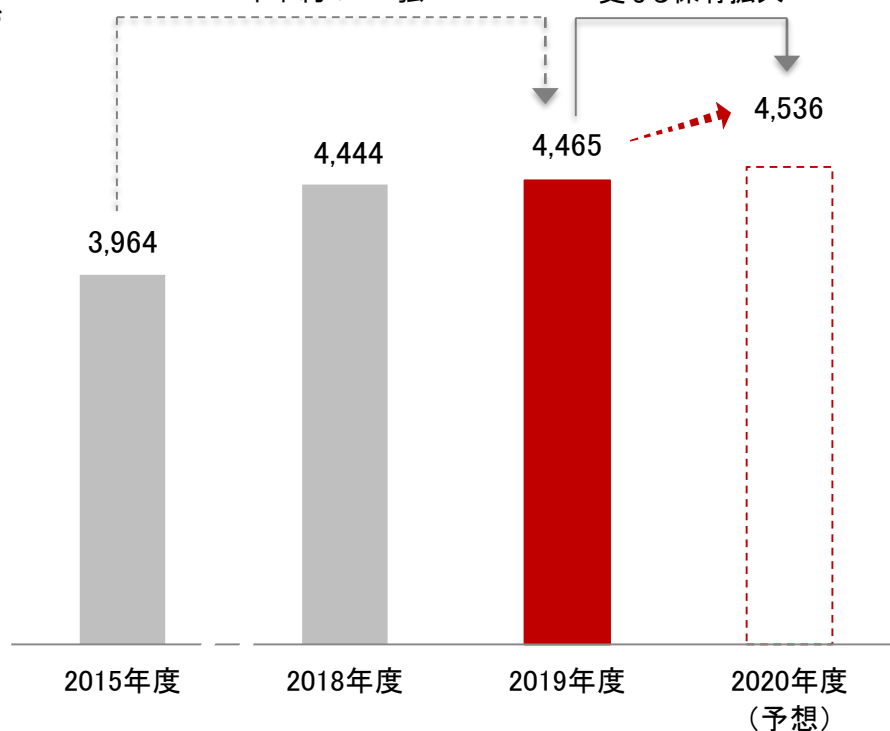


保険料等収入

(億円)

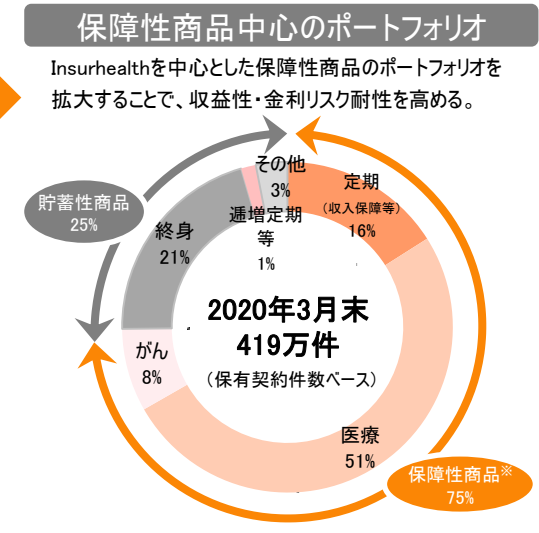
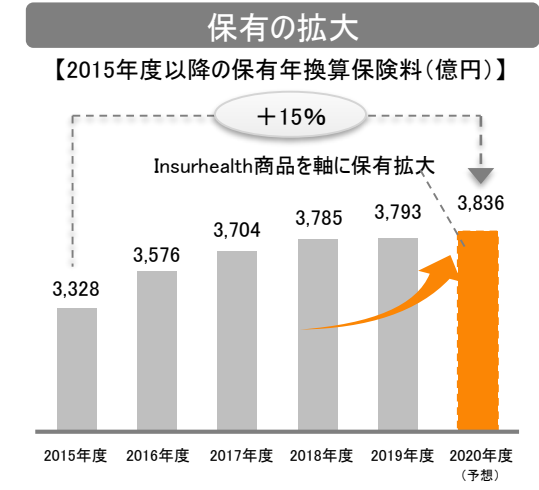
年率約+3%強

医療新商品で更なる保有拡大



◆ Insurhealth[®]による新商品投入などによる成長とともに、生産性向上の実現を目指す

新成長戦略



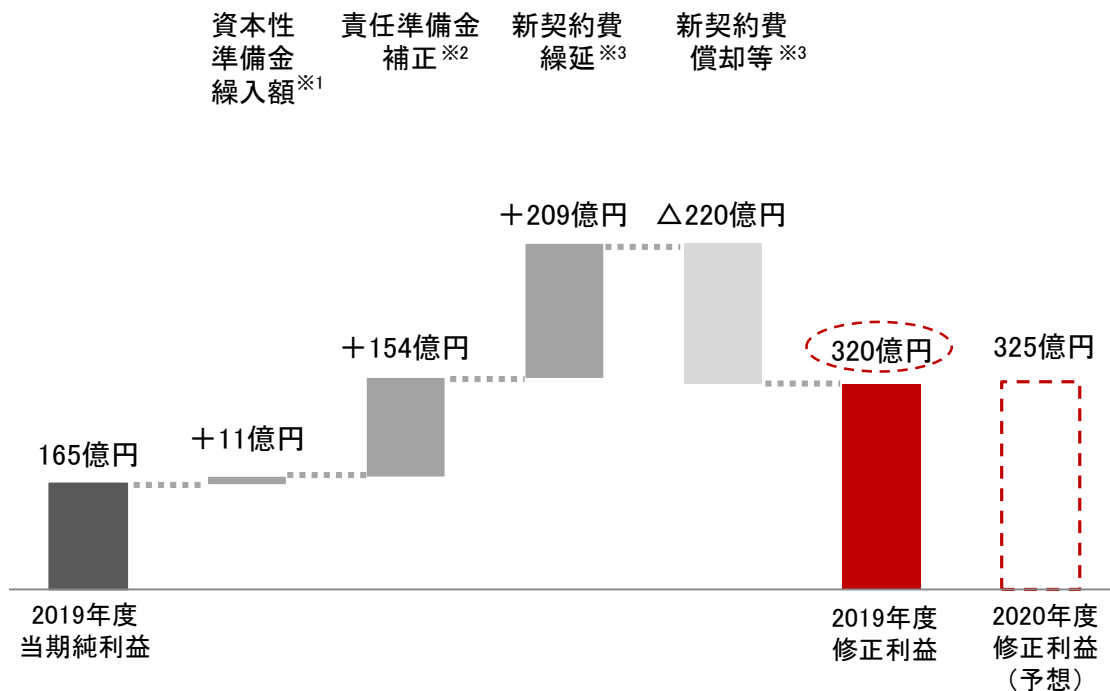
非連続な生産性の向上



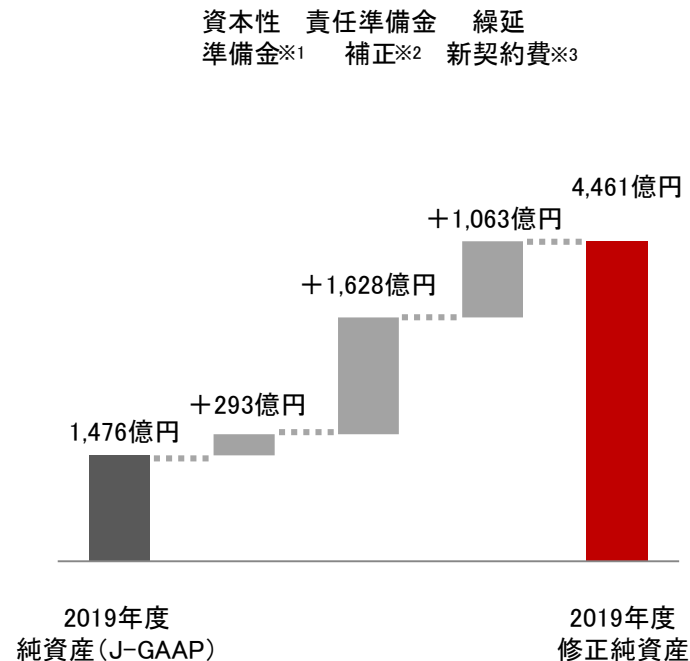
- | | |
|--------------|--|
| 人財力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 人事構造改革 (職種統合・報酬体系見直し) |
| 業務変革 | <ul style="list-style-type: none"> 事務の本社集中化 ペーパーレス化 |
| 働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> 柔軟な働き方(テレワークの一段の推進等) フリーアドレスの導入 |
| 健康経営 | <ul style="list-style-type: none"> 勤務時間の終日禁煙 |

※ 主に医療保険、がん保険、収入保障保険、定期保険(長期など除く)

当期純利益から修正利益へのコンバージョン



(参考)修正純資産



※1 危険準備金、価格変動準備金(税引後)

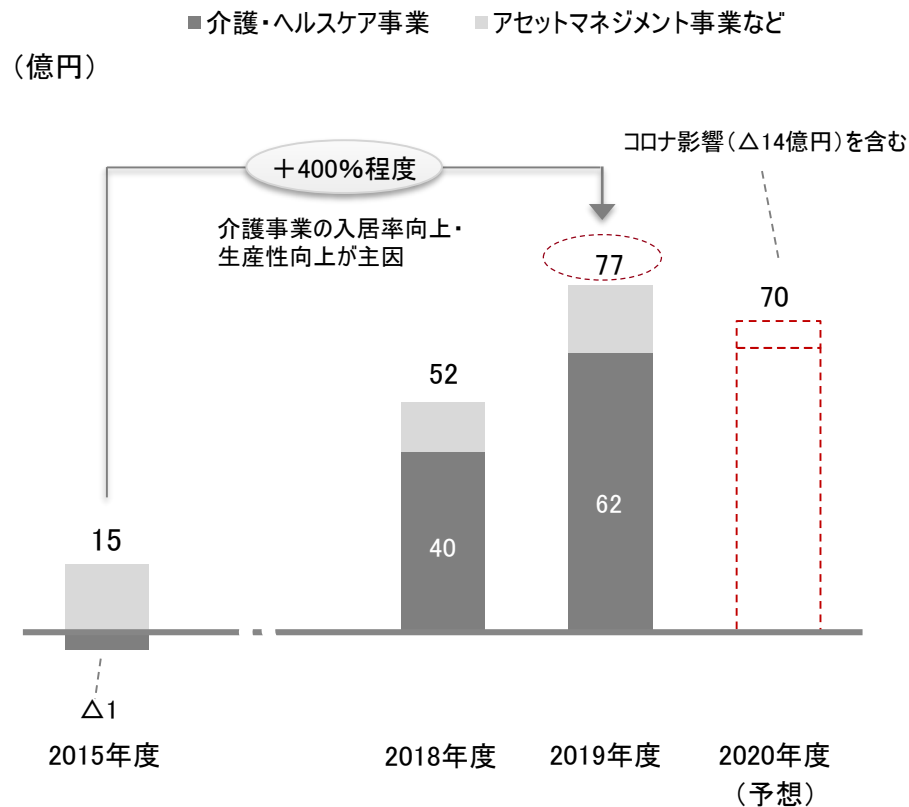
※2 保守的に計算している責任準備金を保険料計算に用いる基礎率により再計算(税引後)

※3 契約初年度に発生する募集手数料等の新契約費を10年間で償却(税引後)

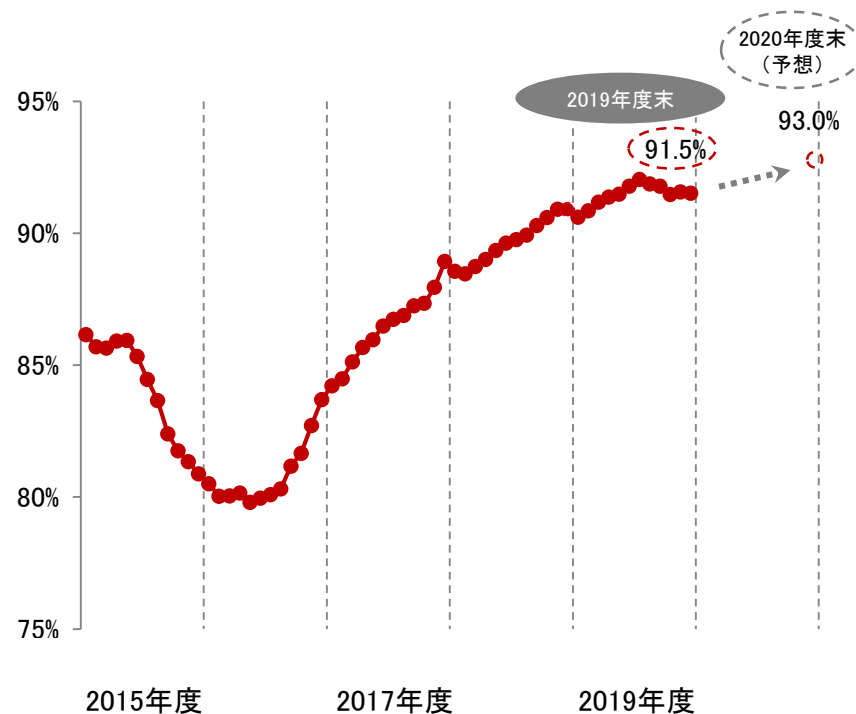
このページは空白です

- ◆ 入居率は高水準で安定、今後は生産性向上を中心とした収益性向上フェーズへ
- ◆ コロナ対策コストで一定の利益影響はあるものの、サービス品質をさらに強化し、事業基盤安定化を図る

修正利益計画



入居率※の推移



※ 旧SOMPOケア・旧SOMPOケアネクストの入居率を統合して記載

- ◆ グループの強みであるデジタルテクノロジーを活用した生産性向上に取り組み、利益の持続的拡大を図る
- ◆ 認知症関連サービスの推進や周辺事業の展開を検討するなど、収益安定化・収益源多様化を目指す

①既存事業における生産性向上

ヒトとICTの融合を推進し、生産性の向上および処遇改善を通じた介護人材の需給ギャップの解消を目指し、単体収益性をさらに向上

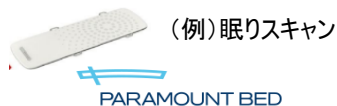
生産性向上

- ◆ デジタル技術活用
-フューチャーケアラボの活用加速
- ◆ 業務プロセス見直し

人材確保

- ◆ 処遇改善(2019年10月～)
-将来的に、看護職並みの水準を目指す

Future Care Lab in Japan



②健康寿命延伸へのチャレンジ

認知症関連サービス等の展開により、健康寿命延伸にチャレンジし、新たな収益源の確保を目指す

認知症関連サービス

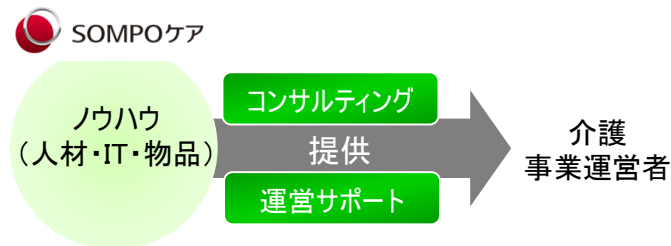
③収益源の多様化

ノウハウやVOC・VOG※を最大限に活用し、介護周辺の新規事業への展開を検討、収益源の多様化を目指す

フードビジネス ノウハウ提供 など

ビジネスプロセスサポートサービス

2020年4月から開始
介護事業者向けに人材・物品購買・ITインフラなどを支援



データの蓄積・分析によるサービス開発

このページは空白です

1. SOMPOホールディングスについて

P1

2. 経営戦略

P6

(1) グループ経営

P6

(2) 事業別進捗

P20

(3) ERM・資本政策・資産運用

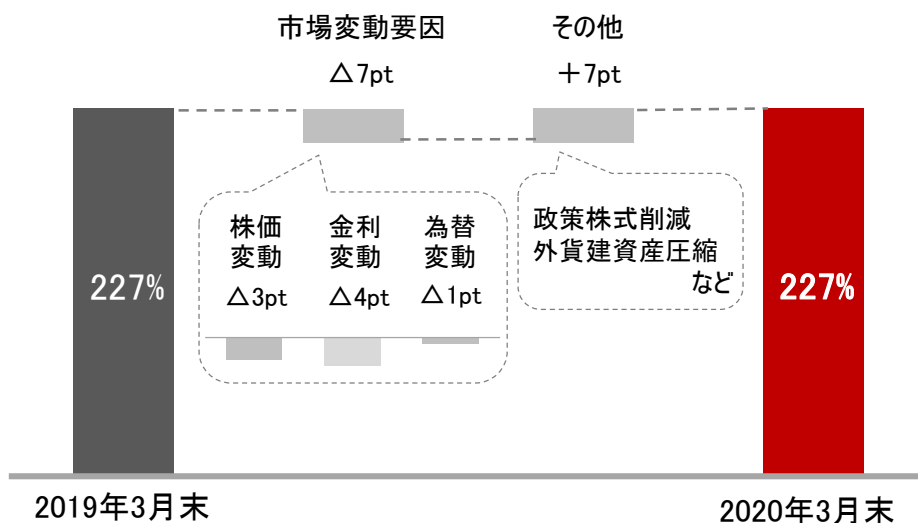
P38

参考資料

P46

財務健全性: ESR(99.5%VaR)

◆ 2020年3月末のESR(99.5%VaR)は、227%とターゲット資本水準を維持

ESR(99.5%VaR)^{※1}の推移

※1 ソルベンシー II に準拠した算出方法

ESR(99.5%VaR)におけるターゲット資本水準は、概ね180%~250%

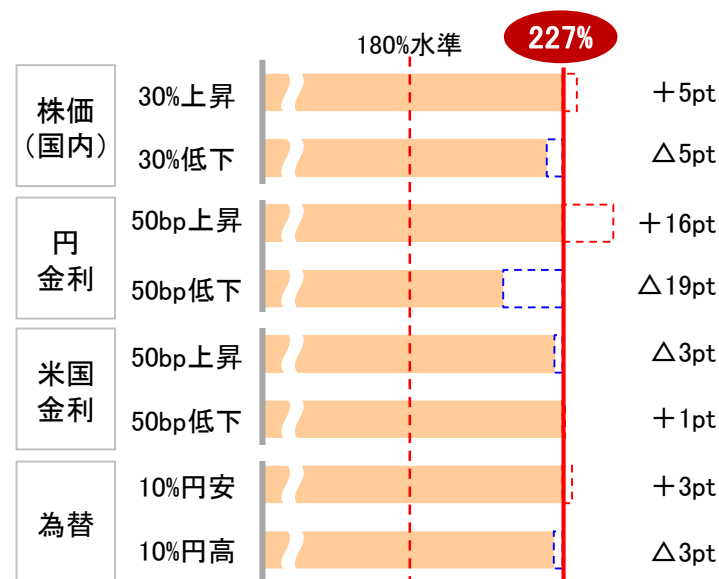
250%水準: 資本効率(ROE)の観点を踏まえた水準

180%水準: ストレステストの結果などを踏まえ、
財務健全性を安定的に確保可能な水準

恒常的にターゲットレンジ外の水準となる場合の代表的な対応

- 【250%超】追加的リスクテイク(成長投資機会)の検討、自己株式取得等による株主還元拡充など
- 【180%未満】各種リスク削減策の実施、ハイブリッド債等による資本増強の検討、内部留保強化など

ESR(99.5%VaR)の感応度分析



(参考)市場環境

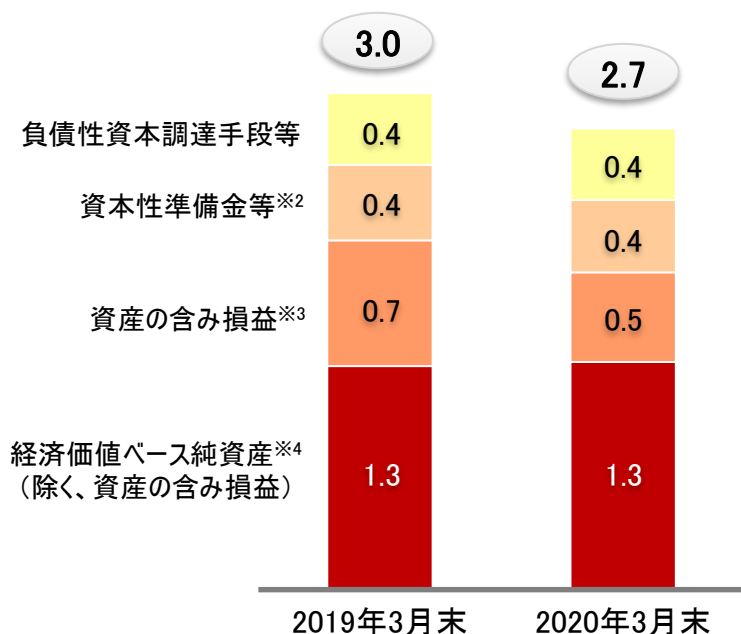
	2020年3月末	(増減 ^{※2})
国内株価(日経平均株価)	18,917円	(Δ10.8%)
国内金利(30年物国債利回り)	0.43%	(Δ8bp)
米国金利	0.67%	(Δ174bp)
為替(米ドル円レート)	108.83円	(Δ1.9%)

※2 2019年3月末対比

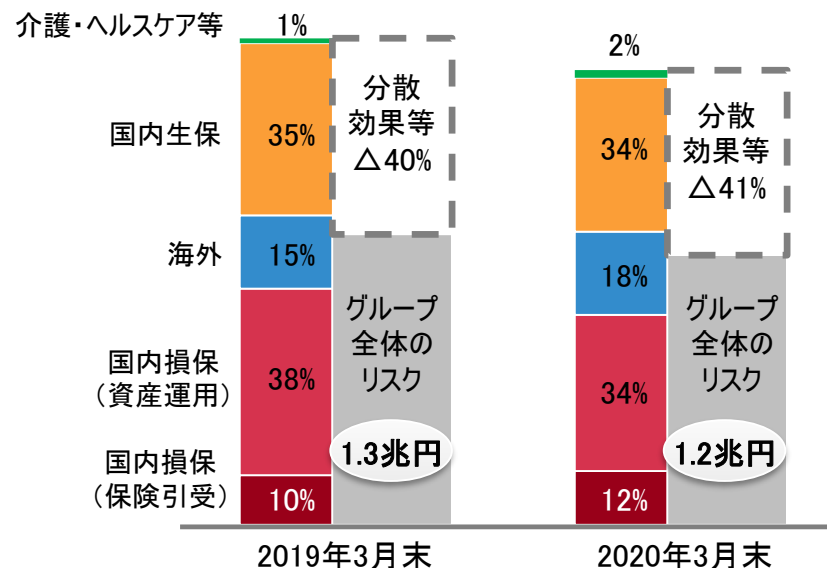
実質自己資本・リスク量のブレイクダウン

実質自己資本※1

(兆円)



リスク量※5



※1 実質自己資本＝単体BS純資産合計額＋保有契約価値－のれん等＋時価評価しない資産の含み損益＋資本性準備金等＋負債性資本調達手段等

※2 価格変動準備金、異常危険準備金など(税引後)

※3 時価評価しない資産を含めた有価証券等の含み損益

※4 単体BS純資産合計額に生損保の保有契約価値などを加算(のれんや非支配株主持分等は控除)

※5 リスク量は保有期間1年、99.5%VaRで計測

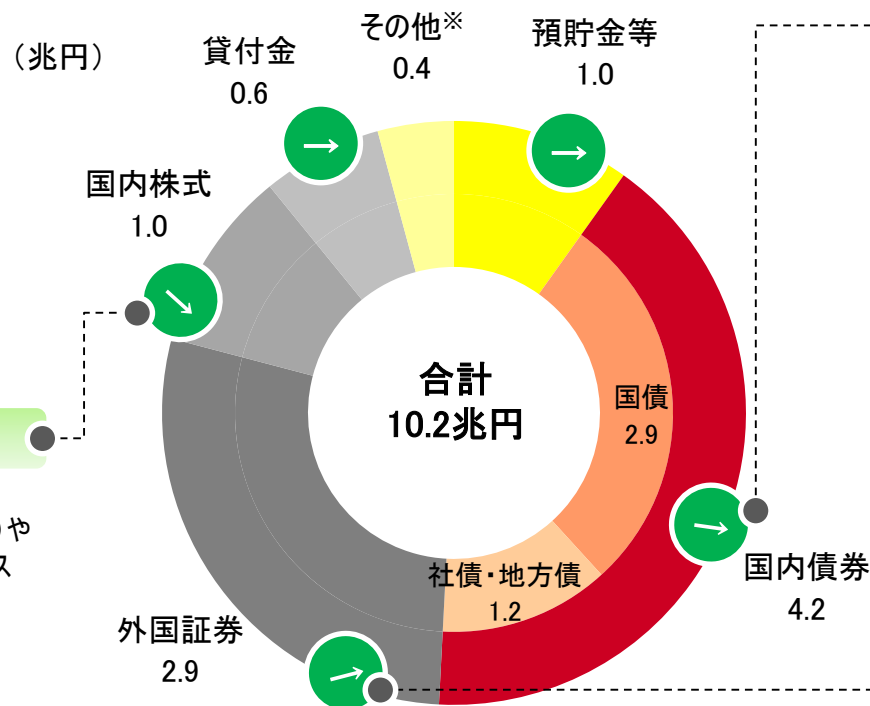
事業毎のリスク量: 事業間のリスク分散効果控除前(税引前)

グループ全体のリスク: 事業毎のリスク量合計－分散効果－税効果

グループ資産運用

- ◆ これまでどおり、流動性・安全性などを十分に勘案の上、安定的な資産運用を行う方針
- ◆ 「政策株式の計画的削減」および「運用手法の多様化などによる利回り向上」を引き続き目指す

グループ資産残高^{※1}と資産運用の方針



政策株式の削減

経済合理性(個別銘柄のRORなど)や保有意義を踏まえつつ、全体のエクスポージャーを削減する方針
(年間1,000億円程度を削減)

低金利環境への対応

資産の質やリスク分散に配慮しつつ、クレジット投資などを活用

再投資利回り^{※2}の目線

現状の市場環境を前提に
1.0~1.5%程度を目指す

● 矢印はアロケーションの方向性(イメージ)

※1 2020年3月末、グループ連結ベース(単位:兆円)
※2 損保ジャパンの一般勘定・円金利資産などが対象

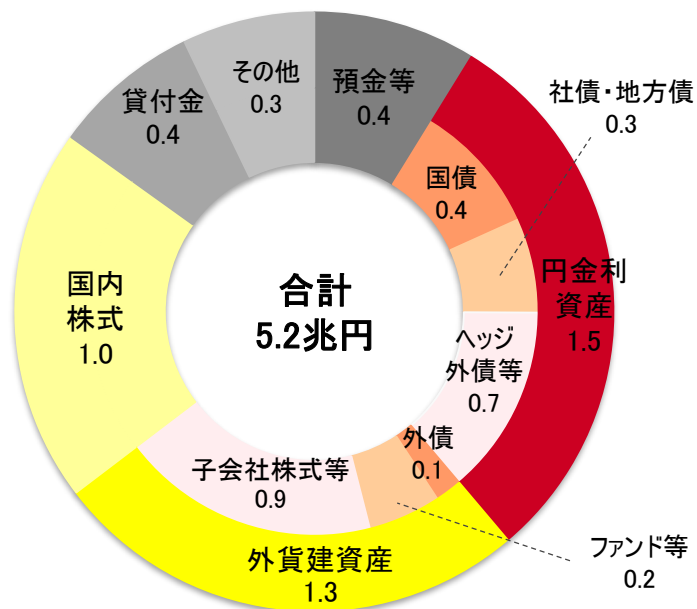
資産ポートフォリオ(損保ジャパン)

◆ 政策株式の削減、分散投資の推進を基本とするポートフォリオ・マネジメントを継続

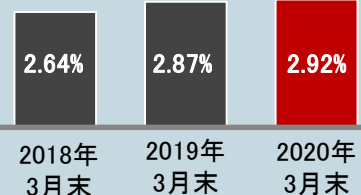
運用資産額(2020年3月末 損保ジャパン単体ベース)

【一般勘定】

(兆円)



インカム利回り(一般勘定)^{※1}の推移



格付別構成比^{※2}

格付	構成比
社内格付	
BBB格以上	100%
BB格以下	0%

デレション(年)

	2019年 3月末	2020年 3月末
資産	7.8	7.9
負債	8.5	8.4

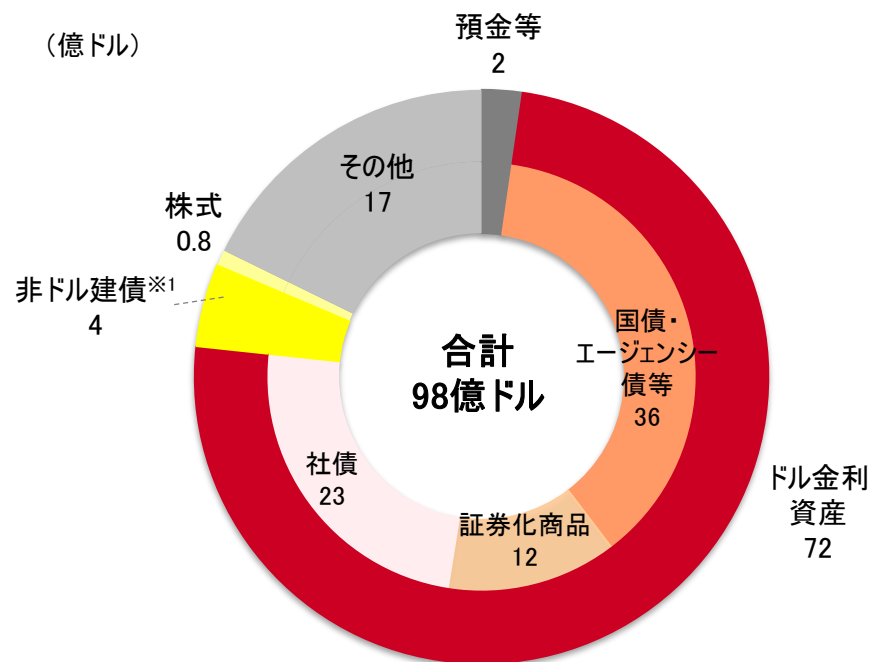
※1 海外グループ会社株式等を除く

※2 円金利資産、外貨建債券の合計

資産ポートフォリオ (SI)

◆ ドル金利資産への投資をベースとしつつ、負債特性を踏まえ、流動性・安全性を重視した運用を継続

運用資産額 (2019年12月末 SI連結ベース)



格付別構成比※2

格付	構成比
BBB格以上	89%
BB格以下	11%

デュレーション(年)

	2018年 12月末	2019年 12月末
資産	3.2	3.0
負債	2.9	3.0

(参考) 2019年12月末のインカム利回り(一部ファンドの未実現損益等の変動を含む)は3.18%

※1 一部預金含む

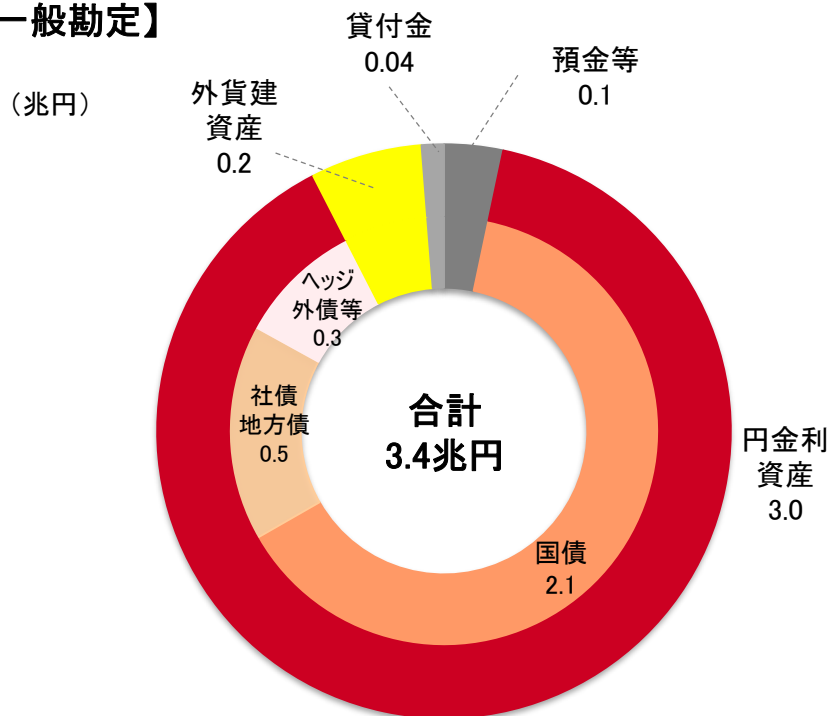
※2 債券資産の合計

資産ポートフォリオ(ひまわり生命)

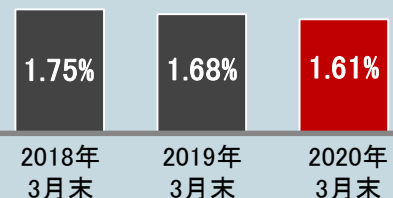
- ◆ 円金利資産を中心としたALM重視のポートフォリオを構築
- ◆ 国内の低金利環境を踏まえ、社債投資等への配分を若干拡大

運用資産額(2020年3月末 ひまわり生命単体ベース)

【一般勘定】



インカム利回り(一般勘定)の推移



格付別構成比*

社内格付	構成比
BBB格以上	100%
BB格以下	-

デレージョン(年)

	2019年 3月末	2020年 3月末
資産	14	14
負債	25	28

(参考)2020年3月末の特別勘定の残高:202億円(主に国内株式・債券で運用)

※ 円金利資産、外貨建債券の合計

このページは空白です

1. SOMPOホールディングスについて P1

2. 経営戦略 P6

(1) グループ経営 P6

(2) 事業別進捗 P20

(3) ERM・資本政策・資産運用 P38

参考資料

P46

SOMPOホールディングスの経営理念

グループ経営理念

SOMPOホールディングスグループは、お客さまの視点ですべての価値判断を行い、保険を基盤としてさらに幅広い事業活動を通じ、お客さまの安心・安全・健康に資する最高品質のサービスをご提供し、社会に貢献します。

グループ行動指針

お客さまに最高品質のサービスをご提供するために

1. 一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、お客さまの声に真摯に耳を傾け、行動することに努めます。
2. 自ら考え、学び、常に高い目標に向かってチャレンジします。
3. 「スピード」と「シンプルでわかりやすく」を重視します。
4. 誠実さと高い倫理観をもって行動します。

目指す企業グループ像

真のサービス産業として、「お客さま評価日本一」を原動力に、世界で伍していくグループを目指します。

ガバナンス

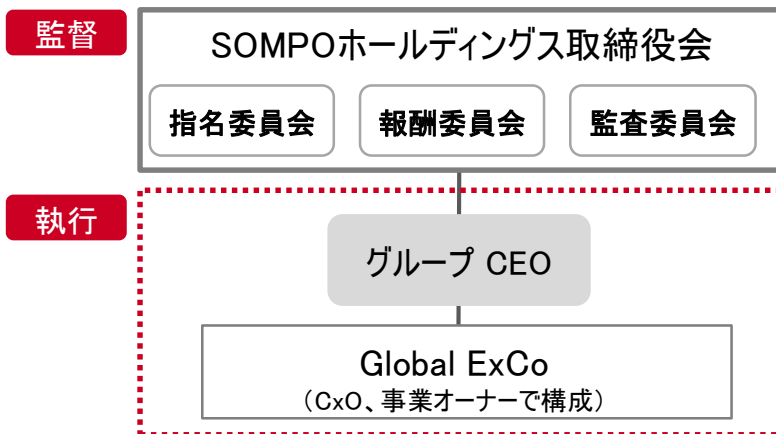
- ◆ グループ経営体制のグローバル化を通じ、グループの持続的成長を加速
- ◆ 海外保険事業のさらなる成長に向け、海外ガバナンス態勢を強化

SOMPOホールディングスのガバナンス態勢

より強固なグループガバナンス態勢

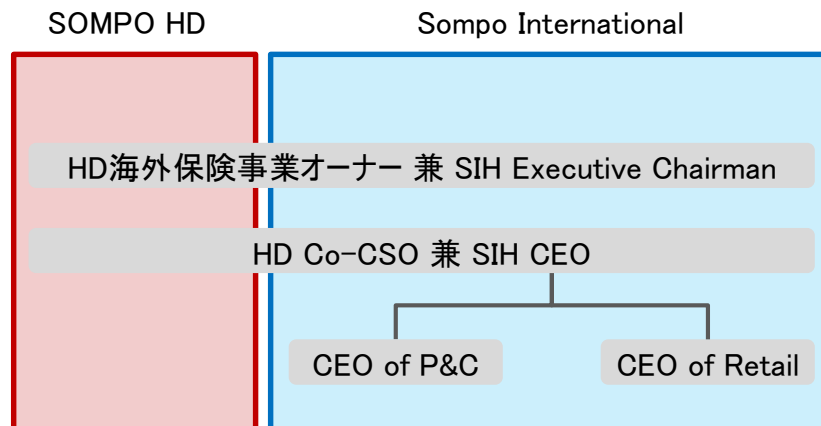
- 過半数を占める多様性に富んだ社外取締役
(取締役11名中7名が社外取締役)
- 指名委員会等設置会社へ移行
- 経営のダイバーシフィケーション、グローバルな人材活用
(SI会長を海外保険事業オーナーに任命するとともに、海外保険事業オーナーおよびSI CEOをGlobal ExCoメンバーに)

指名委員会等設置会社



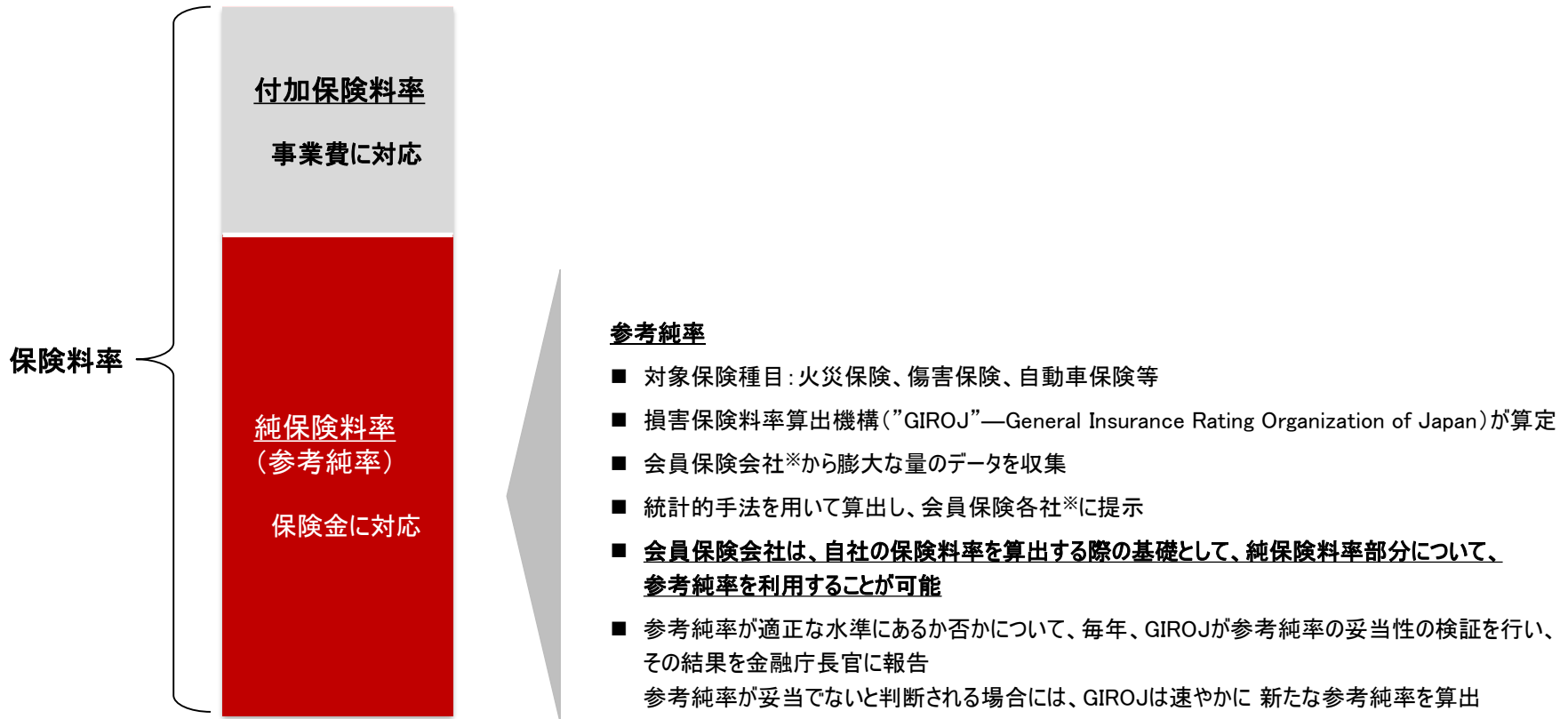
海外ガバナンス態勢の強化

- ガバナンスの実効性をさらに強化
(SIH取締役構成メンバーを3名から5名に拡充)
- 海外保険事業オーナーをSIH CEO、コマーシャル・リテール分野の両ヘッドが支える体制
- 多様な知見を集約することで成長を加速



(国内損保事業)参考純率制度

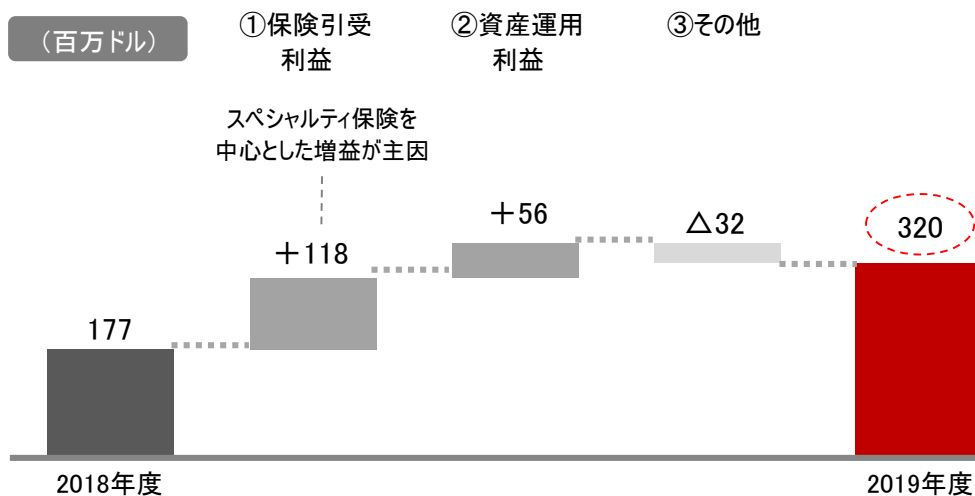
- ◆ 参考純率は、広範な保険統計データに基づく純保険料率であり、保険料率設定の参考となる
- ◆ 参考純率制度は収益安定性装置として機能



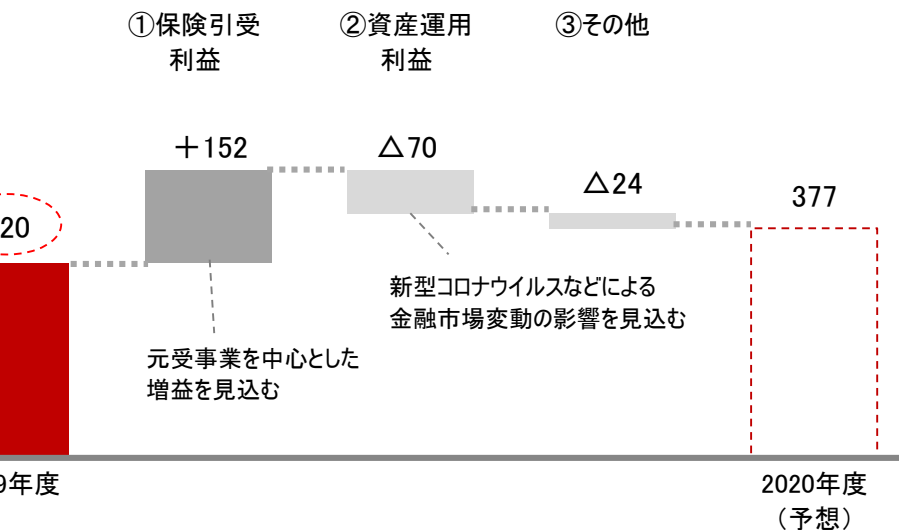
※ 日本損害保険協会会員会社

(海外保険事業)SI業績トピックス

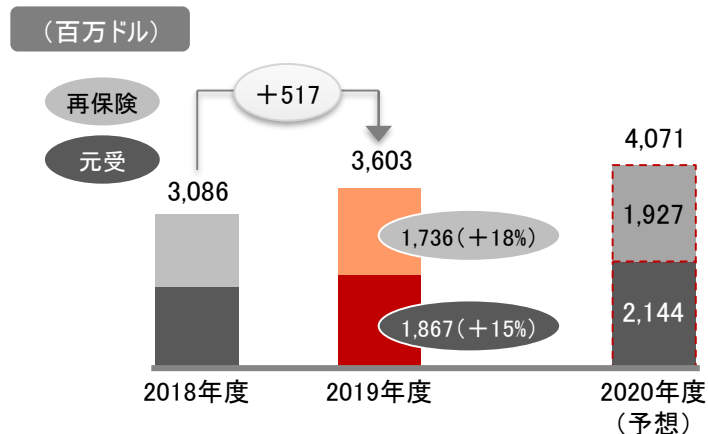
修正利益の増減要因(2019年度実績)



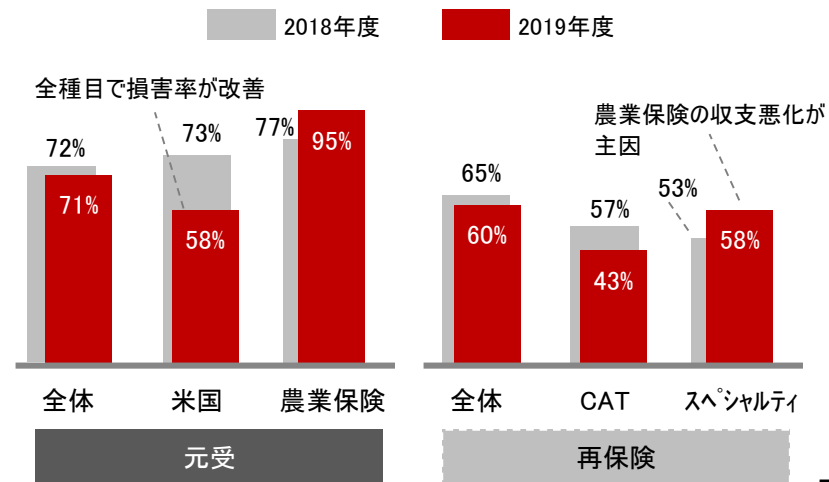
修正利益の増減要因(2020年度予想)



既経過保険料の推移



主要セグメント別損害率



2019年度決算・2020年度通期業績予想(連結)

(単位:億円)	2019年度		2020年度	
	実績	増減	(予想)	増減 (対前年度)
連結経常収益	37,603	+1,173(+3.2%)	-	-
正味収入保険料	28,254	+1,073(+3.9%)	28,600	+345(+1.2%)
生命保険料	3,560	+64(+1.8%)	3,585	+24(+0.7%)
連結経常利益	1,924	△65	2,230	+305
損保ジャパン	1,823	△331	2,100	+276
海外グループ会社	879	+937	601	△277
ひまわり生命	255	+22	246	△8
介護・ヘルスケア※1	101	+42	104	+3
その他・連結調整等※2	△1,135	△735	△823	+312
連結純利益※3	1,225	△241	1,500	+274
損保ジャパン	1,305	△451	1,560	+254
海外グループ会社	753	+814	489	△263
ひまわり生命	165	+11	170	+4
介護・ヘルスケア	61	+19	64	+2
その他・連結調整等※2	△1,061	△636	△783	+278
(参考)修正連結利益	1,508	+372	1,870	+361
国内損保事業	608	+185	965	+356
海外保険事業	501	+170	510	+8
国内生保事業	320	△7	325	+4
介護・ヘルスケア事業等	77	+25	70	△7

※1 介護・ヘルスケアは、SOMPOケア、SOMPOヘルスサポートの合計

※2 上記以外の連結会社の損益および連結調整等による修正額を含む

※3 連結純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す(以下同様)

2019年度決算・2020年度通期業績予想(事業別)①

損保ジャパン

(単位:億円)	2019年度		2020年度	
	実績	増減	予想	増減 (対前年度)
正味収入保険料	21,847	+361(+1.7%)	21,735	△112(△0.5%)
(除く自賠責・家計地震)	19,038	+339(+1.8%)	19,431	+393(+2.1%)
既経過保険料(除く自賠責・家計地震)	18,739	+46(+0.2%)	19,250	+511(+2.7%)
E/I損害率(除く自賠責・家計地震)	63.3%	△3.9pt	61.8%	△1.5pt
正味損害率	64.9%	△4.9pt	64.1%	△0.8pt
(除く自賠責・家計地震)	63.5%	△4.6pt	61.0%	△2.4pt
正味事業費率	32.4%	+0.3pt	32.8%	+0.4pt
(除く自賠責・家計地震)	33.8%	+0.3pt	33.5%	△0.3pt
コンバインド・レシオ(W/P)(除く自賠責・家計地震)	97.3%	△4.3pt	94.6%	△2.8pt
(参考)コンバインド・レシオ(E/I)※(除く自賠責・家計地震)	97.2%	△3.6pt	95.3%	△1.8pt
保険引受利益	431	+11	830	+398(+92.5%)
資産運用粗利益	1,509	△389	1,400	△108(△7.2%)
経常利益	1,823	△331	2,100	+276(+15.1%)
当期純利益	1,305	△451	1,560	+254(+19.5%)
修正利益	641	+173	986	+344(+53.8%)

※ E/I損害率+正味事業費率

2019年度決算・2020年度通期業績予想(事業別)②

	2019年度		2020年度	
	実績	増減	予想	増減 (対前年度)
(単位:百万ドル)				
SI				
グロス保険料	6,787	+827	7,111	+323
正味保険料	3,921	+601	4,363	+442
既経過保険料	3,603	+517	4,071	+467
発生保険金	2,372	+257	2,550	+178
事業費	1,095	+142	1,234	+138
損害率※	65.8%	△2.7pt	62.6%	△3.2pt
事業費率※	30.4%	△0.5pt	30.3%	△0.1pt
コンバインド・レシオ※	96.2%	△3.2pt	93.0%	△3.3pt
保険引受利益	143	+118	295	+152
資産運用損益	301	+56	230	△70
その他損益	177	+352	△71	△249
当期純利益	553	+481	377	△176
修正利益	320	+142	377	+57

※ 損害率、事業費率、コンバインド・レシオ算出における分母は既経過保険料

2019年度決算・2020年度通期業績予想(事業別)③

ひまわり生命

(単位:億円)	2019年度		2020年度	
	実績	増減	予想	増減 (対前年度)
新契約年換算保険料	250	△120	310	+60
保険料等収入	4,465	+20	4,536	+70
資産運用損益(一般勘定)	478	+30	470	△7
経常利益	284	+18	275	△8
当期純利益	165	+11	170	+4
修正利益	320	△7	325	+4

SOMPO ケア

(単位:億円)	2019年度		2020年度	
	実績	増減	予想	増減 (対前年度)
売上高	1,284	+45	1,325	+40
入居率	91.5%	+0.6pt	93.0%	+1.4pt
修正利益	62	+21	63	+0

将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】



SOMPOホールディングス株式会社

IR室

電話番号 : 03-3349-3913

email : ir@sompo-hd.com

URL : <https://www.sompo-hd.com/>